



勉誠出版

研究書 新刊・近刊のご案内

2019.12～2020.04

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-10-2

TEL03-5215-9021 / FAX03-5215-9025

Website=<http://bensei.jp/>

Email=info@bensei.jp

最新の出版総合目録は
右のQRコードから
アクセスいただけます!



勉強出版 注文書

Email info@bensei.jp
FAX 03-5215-9025

※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。
※弊社ホームページのホーム画面上部のバナー「研究書 新刊・近刊のご案内」、もしくはお知らせ欄「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)をダウンロードしてご記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。
※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

No.	書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	冊数
◆事典・総記						
1	文化情報学事典	村上征勝 監修／金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
2	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	
3	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	
4	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	
5	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	
6	近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	
7	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	
8	江戸日本橋商人の記録—(にんべん)伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	
9	甕「豊後切支丹史料」—バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	
10	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	29197	10,000	
11	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	
12	渋沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	
13	荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	
14	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	
15	描かれたマカオ—オーダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	
◆日本語学・言語学						
16	日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	
17	龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	
18	近世後期テニヲハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	
19	論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	
20	サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	
21	国宝 漢書楊雄伝 第五十七	京都国立博物館 原本所蔵・編／石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 解説	2019/12	28046	35,000	
22	続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	
◆古典文学・文学史						
23	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	
24	水門—言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	
25	本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	
26	仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	
27	南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	
28	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	
29	明治の教養—変容する(和)〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	
30	漱石文体見本帳	北川扶生子 著	2020/1	29189	2,800	
31	ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	
32	同性愛文学の系譜—日本近現代文学におけるLGBT以前／以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	
33	平川祐弘決定版著作集 ダンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	
34	平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観—日本人のアイデンティティを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	
35	平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	14,000	
36	平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	14,000	
37	アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	
38	100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	
◆図書館学・アーカイブ						
39	デジタルアーカイブ・ベーシック3 自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村覚 責任編集	2020/4	20283	2,500	
◆統計学						
40	この本を書いたのは誰だ?—統計で探る“文章の指紋”	村上征勝 著	2020/4	29198	1,800	
41	R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	
◆アジア遊学						
42	240 六朝文化と日本—謝靈運という視座から	蔣喬義 編著	2019/12	22706	2,800	
43	241 源実朝—虚実を越えて	渡部泰明 編	2019/12	22707	2,800	
44	242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	
45	243 中央アジアの歴史と現在—草原の叢書	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	
46	244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	
47	245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	
48	246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	
49	247 移動するメディアとプロパガンダ—日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	

文化情報学事典

2019年12月刊行!

村上征勝 [監修]

金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・
阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 [編集]

本体 **18,000**円 (+税)

A5 判上製カバー装・850頁
ISBN 978-4-585-20071-0 C3000

文化と情報にかかわる人々必携の一冊!

コンピューターの進歩により、デジタル情報の利用が飛躍的に加速している。感性や主観が重視されてきた文化の領域でも、文学・美術・考古・歴史・音楽・芸能をはじめとする文化資産をデジタル化し、保存・管理や展示を行う技術が進歩し、またデジタルな分析ツールの発展もめざましい。文化情報学は個々の領域で独立に行われてきた文化研究という縦の糸を、データサイエンスという理系の横の糸で編みあげる文理融合型のアプローチであり、本書はその集大成である。

文化現象を
データサイエンスで
読み解く総合事典

内容構成

A 領域篇

- A1 文章・文献
- A2 言語
- A3 考古・歴史
- A4 人文地理
- A5 文化・芸術
- A6 身体文化・行動計量
- A7 コンピューター・情報

B データ分析篇

- B1 データ分析の基礎
- B2 量的分析法
- B3 質的分析法

C 分析用ソフト

- 付表 ●索引

※内容構成の詳細は裏面参照

本書の特色

- 「文化」と「情報」に関する文理融合型の総合事典
- 理論から具体的な実践例まで収録した“読む”事典
- 300を超える多くの図表・写真でビジュアルも充実
- 総計100名を超える第一線の研究者・専門家が執筆
- 分析ソフトの紹介と日本語／英語索引で検索も充実

【プロフィール】

[監修]

村上征勝 (むらかみ・まさかつ)

統計数理研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授、元同志社大学文化情報学部長。工学博士。研究分野は計量文献学、統計学。主な著書に、『シェークスピアは誰ですか?——計量文献学の世界』(文春新書、2004年)、『文化情報学入門』(勉誠出版、2006年)、『計量文献学の射程』(共著、勉誠出版、2016年)などがある。

[編集]

金明哲 (同志社大学教授)

中園聡 (鹿児島国際大学教授)

赤間亮 (立命館大学教授)

宝珍輝尚 (京都工芸繊維大学教授)

渡辺美智子 (慶應義塾大学教授)

小木曾智信 (国立国語研究所教授)

矢野桂司 (立命館大学教授)

阪田真己子 (同志社大学教授)

芳沢光雄 (桜美林大学教授)

足立浩平 (大阪大学教授)

書名	部数
文化情報学事典 村上征勝 [監修] 金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・ 阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 [編集]	本体 18,000 円 (+税) A5判上製カバー装・850頁 ISBN 978-4-585-20071-0 C3000 2019年12月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

項目一覧

*項目数…127項目

A 領域篇

[A1 文章・文献]

文学・文献の計量分析/計量文献学/計量文体論/平安朝物語の計量分析/西鶴遺稿集の著者問題/『今昔物語集』の文体/中古和文における個人文体とジャンル文体/現代日本語の計量文体論/現代文におけるジャンル別の文体的特徴/論述文の文体的特徴/個人の文体変化/文体模倣の計量分析/川端康成の代筆疑惑/社会学におけるテキスト分析/ツイッターにおけるテキストの計量分析/SNSにおける計量テキスト分析/法科学分野の文章の計量分析

[A2 言語]

言語/コーパス言語学/書き言葉コーパス/話し言葉コーパス/学習者コーパス/形態素解析/構文解析/シソーラス/文字コード/方言地図とGIS/社会言語学調査/音声処理/言語系統論/機械翻訳

[A3 考古・歴史]

デジタル化時代の考古学・歴史学/考古遺物の数量分類/考古資料のデジタル記録/考古学における年代測定法・同位体分析/元素分析による土器の産地推定/地磁気による考古学的調査/地中レーダーによる遺跡探査/考古学におけるGIS/水中考古学とデジタル技術の利用/自然人類学と歴史研究/災害考古学/全国遺跡報告総覧/古文書に対する文字認識技術/情報考古学/民具資料のデジタルアーカイブ化

[A4 人文地理]

学/計量地理学/地理情報システム/地理空間情報/地理情報科学/歴史GIS/地理人文学/ジオ・ビッグデータ(空間ビッグデータ)/景観分析/記憶地図/空間人文学と文学/デジタル地域学

[A5 文化・芸術]

文化・芸術と文化情報学/絵画/工芸品/服飾文化/無形文化のデジタルアーカイブ/映像・ゲーム/映像アーカイブ/出版文化・書物学/書物学(近代)/電子出版/音楽・音響/美術品・考古資料の3次元計測

[A6 身体文化・行動計量]

身体文化・行動計量/演劇/ダンス/演奏/お笑い/身体性認知/赤ちゃん学/スポーツバイオメカニクス/他者性/共同作業/アフオーダンス/身体性メディア技術/インタラクション

[A7 コンピューター・情報]

コンピューターと文化情報学/ビッグデータ/ソーシャルネットワーク/機械学習/深層学習/音声認識/デジタルミュージアム/情報倫理

B データ分析篇

[B1 データ分析の基礎]

文化情報学の源一数の発見とコンピューター/データの分類法/データの要約一度数分布表・グラフ・統計量/データに基づく推論/推定と検定/多変量解析

[B2 量的分析法]

量的変数と分析手法/量的データからの統計的推測/重回帰分析/新指標作成のための主成分分析/主成分分析の探索的活用/探索的因子分析/因果構造と検証的因子分析/分類と次元縮約のためのクラスター分析・多次元尺度法/テキストマイニングと可視化/潜在トピック分析/イメージマイニングと人工知能/空間統計学/データの欠測値処理

[B3 質的分析法]

質的分析法/離散変数の分布/比率の推定と検定/適合度検定/分割表の解析/対数線形モデル/ロジスティック回帰分析/潜在クラス分析/数量化I類・II類/数量化III類/対応分析/項目反応理論/文化系統学/計量的文明論-林の数量化III類の活用

C 分析用ソフト篇

データ解析ソフト/計量テキスト分析のための自由(フリー)ソフトウェアKH Coder/テキスト分析ツールRMeCab/多言語テキスト統計分析ツールMTMineR

●付表 ●索引

本文組見本

A2-7 構文解析

本を 兄の 太郎に ノートを 弟の 三郎に かしている

図1 京都大学テキストコーパスの係り受けアノテーション

本を 兄の 太郎に ノートを 弟の 三郎に かしている

Parallel

図2 BCCWJ-DepParaの係り受けアノテーション

2.1.2 日本語

日本語の依存構造は係り受けとも呼び、文節単位に定義されることが多い。文節単位に定義することにより、主幹後置 (strictly head final) で、平面グラフ上係り受け関係が交差しない (projective) という良い性質を持つ、日本語の係り受け構造を付与したデータとして「京都大学テキストコーパス」[所蔵・長尾¹⁴⁾] (図1) や「BCCWJ-DepPara」[Asahara and Matsumoto¹⁵⁾] (図2) などがある。

2.1.3 多言語

多言語の依存構造情報テキスト言語資源として、Universal Dependencies がある。古語・危機言語も含めて統一した単位、品詞体系、依存構造ラベルを定義し、各国で言語資源の整備を進めている。2018年3月現在、60言語100のブラケットが構築されている。Universal Dependencies [Nivre et. al.¹⁶⁾] (図3) の基準では、基本句内の自立語を主幹とした構造を用いている。他の定義

B2-3 重回帰分析

multiple regression analysis

1. 予測と要因分析

研究対象の特徴を量的変数で捉える場合に、とくに、その値そのものを予測したり、その値の変動を他の特徴量である量的変数から説明したりする場合がある。例えば、表1のような中古住宅の物件データから、取引価格を予測するモデル式を求めたり取引価格の変動に住宅の床面積等の要因がどのような影響を与えているのかを考察する場合である。このような目的に使用される代表的な多変量解析法が重回帰分析である。

重回帰分析では、表2で与えられるようなデータ行列に対して、目的となる変数 Y を目的変数 (従属変数)、 Y の変動を説明する一般に p 個の変数 X_1, X_2, \dots, X_p を説明変数 (独立変数) と呼び、例えば、中古住宅の取引価格の子関数の場合、取引価格が目的変数 Y 、それ以外の住宅の属性を表す変数が説明変数 X_1, X_2, \dots, X_p となる。

重回帰分析では、一般に p 個の変数 X_1, X_2, \dots, X_p を使って Y の予測値 \hat{y} をモデル式

$$\hat{y} = a + b_1x_1 + \dots + b_px_p \quad (i = 1, \dots, p)$$

で求める。このとき、 a は定数項で、 b_1, b_2, \dots, b_p がそれぞれの説明変数に係る (偏) 回帰係数と言われる係数である。これらを重回帰モデルのパラメータという。

パラメータの具体的な値は、 Y と X_1, X_2, \dots, X_p に関するデータが与えられたとき、実際の観測値とモデルによる予測値の差 $e_i = y_i - \hat{y}_i$ の2乗和を最小にするように求められる。予測値と観測値の差 e_i をとくに、 X_1, X_2, \dots, X_p では説明できない Y の残差という。つまり、 n 個の残差の平方和 $SS = \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{y}_i)^2$ を最小にするように (最小二乗法原理) 回帰パ

小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕

古文書の様式と国際比較

東アジア古文書学構築のために――

いまを生きるわれわれに歴史の一場面を伝えてくれる史料、古文書。そこに記された内容のみならず、文字の配置や大きさ、料紙の選択、印の位置など、「モノ」として残るその形もまた、

古文書の持つ様々な意味と機能を伝える貴重な情報源である。古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を、通史的・総合的に論じ、また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。日本の古文書の特徴を浮き彫りにし、東アジア古文書学の構築のための基盤を提供する画期的成果。

二〇一八年秋に国立歴史民俗博物館にて開催され、SNS等でも大きな話題となった企画展示「日本の中世文書——機能と形と国際比較」。その関連シンポジウムおよびフォーラムを一书にまとめた貴重な一冊。歴史ファン・古文書ファン待望の一冊。

掲載図版120点超!
カラー口絵では、
古文書の様式を
分かりやすく図解。

〔編者プロフィール〕……………

小島道裕(こじま みちひろ)

国立歴史民俗博物館 総合研究大学院大学教授
専門は日本中世史。

田中大喜(たなか ひろき)

国立歴史民俗博物館 総合研究大学院大学准教授
専門は日本中世史。

荒木和憲(あらかし かずのり)

国立歴史民俗博物館准教授
専門は日本中世史・東アジア交流史。

〔目次〕

口絵 図解でわかる文書様式

はじめに……………小島道裕

第1部 日本の文書様式とその変遷

1 古代の文書と中世への展開

古代日本における「文書」の誕生……………小倉慈司
〔詔勅〕における口頭伝達の役割……………仁藤敦史
中世日本における書状の広がり
——古代書状論「公文書化」論を中心にして……………佐藤雄基

2 中世文書の諸相

将軍の文書と武士団の文書……………田中大喜
寺院文書の特徴
——祭議文書の形成とその背景……………横内裕人

3 戦国大名の文書と近世への展望

戦国大名の文書と天下人の文書……………金子 拓
——北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か……………小島道裕

第2部 東アジアの古文書と日本の古文書

1 韓国の古文書をめぐって

朝鮮王朝の国王文書……………川西裕也
日本と韓国の署名花押比較……………朴 竣鎬(稲田奈津子訳)
朝鮮時代における私人間の契約文書
——様式と特徴を中心に……………文 叔子(稲田奈津子訳)
東アジア古文書の中の画指……………三上晋孝

2 中国の古文書をめぐって

中国古文書学概論
——公文書の様式研究を例に……………黄 正建(江川式部訳)
明清時代の「信牌」……………阿 風黄 素英訳
日本古代における中国文書様式の受容と変容……………丸山裕美子

3 東アジアの文書と外交の文書

中世日本の往復外交文書
——十五、十六世紀の現存例を中心として……………荒木和憲
安南日越外交文書の様式と伝来……………藤田励夫
イルハン朝(モンゴル支配期イラン)の公文書……………四日市康博

総括 文書実践としての中世文書史……………高橋一樹

あとがき……………小島道裕
執筆者・翻訳者一覧

本体 **7,800**円(+税)
A5判上製カバー装
カラー口絵16頁+本文416頁
ISBN 978-4-585-22272-9 C3020
2020年3月刊行

<p>書名</p> <h2>古文書の様式と国際比較</h2> <p>小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕</p>	<p>部数</p> <p>本体7,800円(+税) A5判上製カバー装 カラー口絵16頁+本文416頁 ISBN978-4-585-22272-9 C3020 2020年3月刊行</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人

編

日本の表装と修理

装い、繕い、伝える――

絵画や書、古文書など、紙や絹を用いた文化財は、表装によって、より美しく、より長くその存在を守られ続ける。これらの歴史的遺産を修理・保存し、伝えていくことは、込められた人々の思い・願いをも共有していく営みである。表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたものなのか。文化財の修理・保存の第一線にあり、その困難な作業の中で、技術者たちはどのような試行錯誤を重ねてきたのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての文化財保護の意義と意味を照射する。

「编者プロフィール」

岩崎奈緒子（いわさき・なおこ）
京都大学総合博物館教授。専門は日本近世史。

中野慎之（なかの・のりゆき）
文化庁文化財第一課文部科学技官（絵画部門）。専門は美術史。

森道彦（もり・みちひこ）
京都国立博物館研究員（中世絵画）。専門は中近世絵画。

横内裕人（よこうち・ひろと）
京都府立大学教授。専門は日本中世史。

「おへこ」

口絵
はじめに
参考文化財の構造と名称

第一部 現代の装演・文化財修理

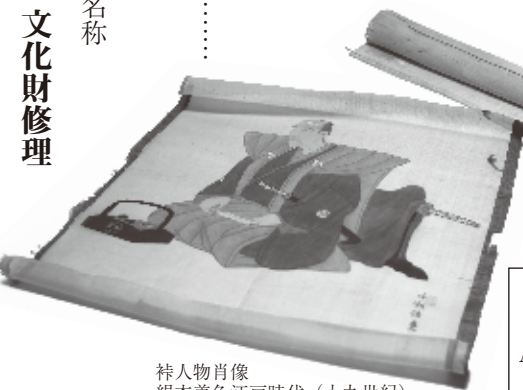
装演師の声を聞く
――技術者から見た装演文化財修理の進化◆岩崎奈緒子
表具師から装演師へ◆岡興造
古文書修理の歴史と理念◆湯山賢一

第二部 表装の文化史

日本中世の仏画の表装◆谷口耕生
「東山表具」の成立をめぐる小考◆板倉聖哲
江月宗玩による表具の記録と制作◆門脇むつみ
表装が伝えるもの――後水尾院縁の掛軸を事例として◆高田智仁
近代日本における中国書画蒐集と表装◆竹浪遠
近代日本画の材料と表装◆中野慎之

第三部 修理の文化史

平安時代の仏画制作とその修理◆増記隆介
前近代における書跡・古文書修理の諸相
――現状維持の理念をめぐって◆横内裕人
護持院隆光の寺社修理――元禄期の奈良を中心に◆古川攝一
近世における障壁画の保存と継承◆森道彦
近世ヨーロッパ美術と修復
――芸術作品の受容史の視点から◆平川佳世
あとがき
執筆者一覧

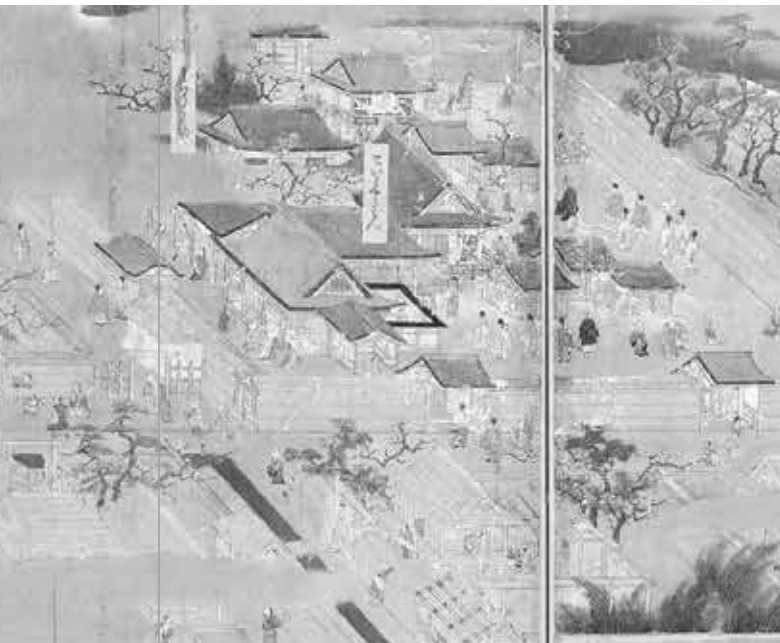


持人物肖像
絹本着色江戸時代（十九世紀）
（京都府蔵（京都文化博物館管理））

本体 7,000円(+税)

A5判上製・カラー口絵 8頁+424頁
ISBN 978-4-585-20073-4 C1000
2020年3月刊行

書名	部数
日本の表装と修理 岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 [編]	部
本体 7,000円(+税) A5判上製・カラー口絵 8頁+424頁 ISBN 978-4-585-20073-4 C1000 2020年3月刊行	部
ご送付先ご住所（通信欄）	



歴博甲本洛中洛外図屏風の研究

小谷量子 [著]

(こたに・りょうこ) 日本女子大学文学部史学科学術研究員、東京家政大学非常勤講師。博士(文学)。専門は日本中世史・日本美術史。主な論著に、威光山法明寺・近江正典編『雑司ヶ谷鬼子母神堂開堂三百五十年・重要文化財指定記念 雑司ヶ谷鬼子母神堂』勉誠出版、二〇一六年、共著、『歴博甲本洛中洛外図屏風に見る三条西邸と近衛邸』(『都市史研究』2号、都市史学会、二〇一五年)などがある。

現存最古の洛中洛外図屏風は、「歌・物語絵屏風」だった

芸術志向の近現代絵画とは異なる中世絵画の特徴をふまえ、歴博甲本に描かれた主題、注文者、そして作者を明らかにする。絵の中に巧に隠された「歌・物語」の中に、制作を命じた将軍のメッセージが残されている。

【目次】

はじめに

序論 歴博甲本洛中洛外図屏風研究史と本書の構成

第一部 歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた戦国期京都について

歴博甲本洛中洛外図屏風 將軍邸近辺の空間構造

歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた比丘尼御所の住持

第二部 歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた歌・物語絵

歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた歌絵／三条西邸鶯合と近衛邸の風呂

祇園会再興と足利義澄／足利義澄の観能と参内

宝鏡寺・南御所の所領と歴博甲本に描かれた白布

歴博甲本制作契機と『融通念仏縁起絵巻』

第三部 室町後期歌絵

室町後期における歌絵享受／歌絵・物語絵の表現手法

補論◎伊勢物語二十三段 筒井筒について

補論◎藤原重雄氏「上杉本洛中洛外図屏風」をめぐる新説について

——行列従者・輿の理解——について反論

結論 歌・物語絵としての歴博甲本洛中洛外図屏風

初出一覧／図版出典一覧／あとがき

本体 10,000円(+税)

A5判上製カバー装・524頁
ISBN 978-4-585-22257-6 C3021
2020年2月刊行

書名	部数
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究 小谷量子 [著]	本体 10,000円(+税) A5判上製カバー装・524頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-22257-6 C3021
ご送付先ご住所 (通信欄)	

日本近世社会と町役人

望月良親 [著]

本体六,〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・二五六頁

二〇二〇年二月刊行

ISBN978-4-585-22266-8 C3021

日本近世社会において、都市の支配者である武士と民衆との結節点を担った町役人。

彼らは如何にして自身の家を存続させていったのか――

商人などの新興勢力とのせめぎあいの中で、

彼らはその職掌を守るべく、

様々な手立てを講じていた。

甲斐国の甲府町年寄を代々務めたとされる坂田家。

十七世紀半ばから幕末期にかけての社会変容の中で、

彼らはどのようにして中世以来続く

世襲町役人としての位置を確固たるものとし、

近世社会を生きていったのだろうか。

伝来の文書等諸史料の博搜により明らかにし、

新たな近世社会の様相を描き出す。

〔著者プロフィール〕

望月良親 (もちづき・よしちか)

高知大学人文社会科学系教育学部門講師。専門は日本近世史。

論文に「近世の町役人と記録――甲府町年寄坂田信齋の明治維

新」(『海南史学』57、二〇一九年)、「近世長良川鶴飼観覧研究

序説」(『岐阜市歴史博物館研究紀要』24-1、二〇一九年)、「幕

末の美濃国と幕府領――文久元年の箱訴と私領化の風聞」(『岐

阜市歴史博物館研究紀要』23、二〇一七年)などがある。

〔目次〕

はしがき

序章 近世都市史研究の課題と本書の構成

近世都市史研究の現在／町役人の研究をめぐって／分析対象の概観／本書の構成

第一章 町役人の系譜――坂田忠家と甲府町年寄

一七世紀後半の甲府と甲府町年寄／甲府町年寄の盛衰／坂田家の「筋目」と甲府町年寄

第二章 享保期における町役人の変容

――享保九年の甲斐国幕領化を事例に
享保九年柳沢吉里の転封と町方／「久敷事をも覚罷在候者」

第三章 町役人と將軍年始参上

將軍年始参上の許可／江戸参上の由緒形成／「先格」の実像／安永六年の將軍年始参上／寛政六年の変化

第四章 幕領の町役人と江戸――江戸へ去る幕府役人

安永六年の甲府町年寄坂田忠家と將軍年始参上／甲府町年寄と江戸

第五章 甲州騒動と「御救」

思い起こされる天明七年の「御救」／甲州騒動後における甲府の「御救」／幕末の「御救」

第六章 移動する將軍と町役人の將軍年始参上

町役人はどこに行く／將軍が居る畿内／江戸に集う町役人

終章 近世都市と町役人の家

甲府町年寄と坂田家／町役人の家／町役人の近代／都市史を拓くために

あとがき／初出一覧／索引

書名	部数
日本近世社会と町役人	本体6,000円(+税)
望月良親 [著]	A5判上製カバー装・256頁
	2020年2月刊行
	ISBN978-4-585-22266-8 C3021
ご送付先ご住所 (通信欄)	

きんせいごうしょう・ごうのうの(へいせい)けいえいとしよもつじゆよう

近世豪商・豪農の 〈家〉経営と書物受容

鈴木淳世〔著〕

北奥地域の事例研究

「知」はどのように彼らの行動を規定したか——

十九世紀前半、相次ぐ飢饉や財政窮乏などの社会状況の変化に対し、

中間層である豪商・豪農たちはどのように対応していったのか。

北奥・八戸藩において対照的な行動をなした豪商と豪農の二人の人物を取り上げ、

その行動の背景にある思想の形成過程を蔵書体系や書物受容から探り、

村・町などの共同体との共生において、

「知」がどのように関わっていたのかを鮮やかに描き出す。

【目次】

まえがき

序 章…本書の課題

第一章…淵沢定啓の蔵書形成

第二章…淵沢定啓の書物受容

第三章…淵沢定啓の経営思想

第四章…淵沢定啓の鉄山支配

第五章…石橋憲勝の経営思想

第六章…八戸藩領の書物流通

終 章…本書の成果と今後の課題

あとがき・初出一覧・索引



【著者プロフィール】

鈴木淳世(すずき・よしとよ)

一橋大学院社会学研究科特任講師。専門は日本近世史。

主要論文に、「十九世紀前半における「鉄山支配人」の性格——八戸藩領「中間層」の場合」

（『一橋社会科学』五二〇—二〇一三年）、「近世後期八戸藩の豪農による書物受容の特質——淵沢

巴右衛門定啓の場合」（『歴史』二二二、二〇一四年）、「近世中期城下町商人の経営思想——

八戸城下・石橋徳右衛門憲勝の場合」（『人民の歴史学』二〇二二、二〇一四年）などがある。

本体 一〇、〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・四八〇頁

二〇二〇年二月刊行

ISBN978-4-585-22265-1 C3021

書名	部数
近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容——北奥地域の事例研究 鈴木淳世〔著〕	部
本体 10,000円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-22265-1 C3021	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容

——北奥地域の事例研究

鈴木淳世〔著〕

本体一〇〇〇〇円（＋税）
A5判上製カバー装・四八〇頁
二〇二〇年二月刊行
ISBN978-4-585-22265-1 C3021

【目次】

まえがき

序 章 本書の課題

はじめに

第一節 研究史整理

第二節 本書の課題

第三節 八戸藩の概要

第一章 淵沢定啓の蔵書形成

はじめに

第一節 軽米町淵沢家の概要

第二節 淵沢定啓の蔵書形成

第三節 『四書示蒙句解』抜書の特徴

おわりに

第二章 淵沢定啓の書物受容

はじめに

第一節 天保期の書物受容

第二節 弘化・嘉永期の書物受容

第三節 安政期の書物受容

おわりに

第三章 淵沢定啓の経営思想

はじめに

第一節 淵沢家経営の概況

第二節 「国産」政策への関与の影響

第三節 飢民救済活動の責務

おわりに

第四章 淵沢定啓の鉄山支配

はじめに

第一節 「鉄山支配人」の性格

第二節 「鉄山支配人」の経営

おわりに

第五章 石橋憲勝の経営思想

はじめに

第一節 寛延・宝暦飢饉の影響

第二節 石橋憲勝の飢饉対策

第三節 石橋憲勝の書物受容

おわりに

第六章 八戸藩領の書物流通

はじめに

第一節 「大仲間」の概要

第二節 「大仲間」以外の活動

第三節 「書物仲間」の影響

おわりに

終 章 本書の成果と今後の課題

はじめに

第一節 北奥地域の《地域性》

第二節 十九世紀前半の《時代性》

第三節 益軒研究に関する論点

おわりに

あとがき

初出一覧

索引

編

渡辺浩一

(わたなべ・こういち)

マシュー・デーヴィス

(Matthew Davies)

人間文化研究機構国文学研究資料館・総合研究大学院大学文化科学研究科教授。専門は日本近世史。著書に『江戸水没 寛政改革の水害対策』(平凡社、2019年)などがある。

ロンドン大学バーベック校教授。専門は近世ロンドン史。著書に『Medieval Merchants and Money』(共編著 London, Institute of Historical Research, 2016) などがある。

近世都市の 常態と非常態

人為的自然環境と災害

自然と人間の相互関係を連環のなかに捉えかえす――

災害という「非常態」の解明には、前提として当該期の人間社会の「常態」が如何なる状況にあったのかを把握しておくことが必要である。

人間社会に不可欠である「水」に着目し、

近世都市において、水がどのようなシステム・環境の元に制御され、

また、災害によりどのような変化・対応を強いられたのかを、

学融合・比較という観点から解明。

人為的自然としての人間社会の動態のなかに災害を位置づけ、

環境史研究の新たな方法論を模索する。

●もくじ

凡例 序章 近世都市の常態と非常態：渡辺浩一

第一部 後背地と人為的自然環境

江戸の水害と利根川・多摩川水系：渡辺浩一
自然改造の結果としての都市空間・江戸：石神裕之
嵐・洪水とロンドンの発展

第二部 インフラの機能と維持
――一七〇〇～一五〇〇年：マシュー・デーヴィス(金崎邦彦訳・石津美奈校閲)

遺跡からみた都市江戸の上下水道の管理：石神裕之
江戸城堀の浸漑について

――一七六五年(明和二)の岡山藩による堀浚を中心とした岩淵令治
堀川の浸漑と土砂堆積、そして洪水――江戸、本所・深川の地域的特質：高橋元貴

ロンドンの川に橋を架ける――ロンドン橋の建設・維持とテムズ川の管理
：ヴァネッサ・ハーディング(小風尚樹訳・木村晶子校閲)

第三部 水害と対応
――一七世紀ロンドンにおける大寒波の影響と市民の対応：菅原末宇

第三部 水害と対応

――一八五六年(安政三)東日本台風経路の復元：平野淳平・財城真寿美
――一八五六年(安政三)東日本台風の被害状況と江戸の対応：渡辺浩一
氾濫を避け――一八世紀後半のプラハ(ボヘミア)における行政組織の洪水管理政策

：オンドジュイ・フデチエク(長谷川祐平訳・春山雄紀校閲)

あとがき／執筆者・翻訳者・校閲者一覧／英文目次・序章英訳／奥付

本体七、〇〇〇円(＋税)

A5上製カバー装・二四〇頁

二〇二〇年三月刊行

ISBN978-4-585-22267-5 C3020

書名	部数
近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害	
渡辺浩一／マシュー・デーヴィス [編]	
本体 7,000円(＋税)	
A5判上製カバー装・240頁	
ISBN 978-4-585-22267-5 C3020	
2020年3月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

江戸日本橋商人の記録

〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書

澤登寛聡・筑後則 [編]

五街道の起点・日本橋には、江戸時代初期から多くの伊勢商人が進出した。今に続く鯉節販売の老舗〈にんべん〉を興した高津家もそのうちのひとつであった。享保改革期から田沼時代・寛政改革・文化期まで活躍し、三百二十年の歴史の基礎を築いた高津家三代・四代当主の活動を克明に記した日記・文書として、その思想・人生哲学を伝える史料を初めて翻刻、解題・通釈を付して公刊。資金繰り、相場の変動、雇用問題、家族の死、度重なる災害など、目まぐるしく変わる状況に彼らはいかに対応してきたのか――



江戸商人の生き様を
活写する貴重史料、
初の公刊。

【編者プロフィール】……

澤登寛聡（さわと・ひろさと）

元法政大学文学部教授。博士（文学）。専門は歴史学・江戸時代史（日本近世史）研究。著書に『江戸時代自治文化史論』法政大学出版局、二〇一〇年、編著書に『農家調査記』岩田書院、二〇〇一年、『富士山と日本人の心性』岩田書院、二〇〇七年、『北東アジアのなかのアイヌ世界』岩田書院、二〇〇八年などがある。

筑後則（ちくご・のり）千葉科学大学非常勤講師。専門は日本近代史・江戸商人研究。著書に『福徳稲荷縁起考』福徳神社、二〇一四年、共著に『東京都の地名』（日本歴史地名大系13、平凡社、二〇〇二年）、『大江戸知らないことばかり』NHK出版、二〇一八年などがある。



本体 **11,000**円(+税)
四六倍判上製
カラー口絵 16頁+336頁
ISBN 978-4-585-22269-9 C3021
2020年3月刊行

【もくじ】……

- 口絵 …………… 澤登寛聡
- はじめに …………… 澤登寛聡
- 【史料解題】…………… 澤登寛聡・筑後則
 - 高津幸通日記／追遠訓／吉右衛門殿宛高津伊兵衛幸通書状／遺囑／福壽録／無言語／高津伊七日記／高津家姓系図
 - 【翻刻】……………
 - 高津幸通日記／追遠訓／吉右衛門殿宛高津伊兵衛幸通書状／遺囑／福壽録／無言語／高津伊七日記／高津家姓系図（影印）
 - 【解説】…………… 筑後則
 - 鯉節商伊勢屋伊兵衛三代の記／高津伊兵衛の歴史／高津幸通日記 日記序 通釈／福壽録 通釈／無言語 通釈
 - あとがき …………… 澤登寛聡

<p>書名</p> <p>江戸日本橋商人の記録 〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書</p> <p>澤登寛聡・筑後則 [編]</p> <p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	<p>部数</p> <p>本体 11,000円(+税)</p> <p>四六倍判上製・カラー口絵16頁+336頁 ISBN 978-4-585-22269-9 C3021 2020年3月刊行</p> <p>部</p>
--	--

甦る「豊後切支丹史料」

ふんごきりしたん

バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より

松井洋子 (東京大学史料編纂所教授)

佐藤孝之 (東京大学名誉教授)

松澤克行 (東京大学史料編纂所准教授)

【編】

原本をもとに再翻刻した決定版

一九四二・四六年に刊行されて以後、

キリシタン研究に不可欠の基礎文献として用いられてきた

『豊後切支丹史料』・『続豊後切支丹史料』。

両書はイタリヤ人のサレジオ会宣教師マリオ・マレガ神父が

大分在任期間中に集めた史料をもとに編纂されたが、

収載史料の原本の所在は長く不明とされてきた。

本書は、二〇一一年にバチカン図書館で大量に発見された

マレガ氏収集史料に含まれていた

両書の原史料に基づき、改めて忠実に校訂・翻刻。

さらに関連する史料を併せて提供する。

マレガ氏収集史料の成り立ちと歴史的・文化的意義、

『豊後切支丹史料(正・続)』の位置づけを明らかにした

詳細な解題に加え、参考資料、人名索引も付し、

近世史・キリシタン史・藩政史・地域史等、

幅広い分野の研究に資する決定版。

本体 一一、〇〇〇円(+税)
A5判上製カバー装
口絵四頁+本文約五六〇頁
二〇二〇年二月刊行
ISBN978-4-585-22261-3 C3020

【目次】

口絵

はしがき

解題『豊後切支丹史料』と

マレガ氏収集史料…松井洋子

翻刻

あとがき

白杵藩村組一覧

近世後期の白杵藩の村

白杵藩宗門奉行就任者一覧

収載史料編年一覧

人名索引

『豊後切支丹史料(正・続)』の内容

主にマレガ氏が収集した白杵藩宗門方のキリシタン統制関連史料から、寛文期の大量摘発の経緯を示す白杵藩と長崎奉行・幕府宗門改役との往復書簡、捕縛され、処刑・籠死した人々と、その子孫「類族」として監視された人々の記録、踏絵・宗門改めの手続きに関する文書を収載する。

書名	部数
甦る「豊後切支丹史料」 バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より 松井洋子・佐藤孝之・松澤克行【編】	本体 12,000円(+税) A5判上製カバー装・口絵4頁+本文約560頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22261-3 C3020
ご送付先ご住所 (通信欄)	

島村幸一

編

琉球船漂着者の「聞書」世界

『大島筆記』翻刻と研究

アジアのなかの琉球を知るための貴重資料

宝暦十二年（一七六二）旧暦四月、薩摩へ向かう一艘の琉球船が暴風雨に遭遇し、土佐へ漂着した。

土佐藩の儒者・戸部良熙が、乗船していた琉球人潮平親雲上から聞き書きをとり、琉球側からの提出資料とともにまとめたもの、それが『大島筆記』である。優れた教養を有した二人の邂逅により纏められた本書は、琉球王府が編纂した資料では窺えない、当時の琉球人が語った貴重な情報に満ち溢れている。

漂着の次第はもとより、琉球の地誌全般、当地における文芸や言語、風俗、さらには、中国や日本など琉球を取りまく地域との交流・交叉の諸相を伝え、江戸期の琉球認識などを知るためにも貴重な資料である。

諸本のうち最も内容の備わった最善本を初めて全編翻刻、校異を付し、さらに琉球船の土佐への漂着に関する貴重資料『琉球船漂着記』『韓川筆話（抄）』『琉球人話』を収録。

研究篇として、文献学・文学・文化史・外交史・空手史・言語学等に関する充実の論考六篇を収載した決定版。

〔目次〕

はじめに◆島村幸一

第1部 翻刻編

大島筆記（国立国会図書館所蔵）
● 附録『大島筆記』に関連する資料

琉球船漂着記（高知県立図書館所蔵）
韓川筆話（抄）（国立国会図書館所蔵）
琉球人話（安芸市歴史民俗博物館所蔵）

第2部 研究編

宝暦十二年琉球国船漂着記録
『大島筆記』諸本について（改訂）◆横山學

土佐国漂着の琉球船「聞書」資料の世界
『大島筆記』を中心に◆島村幸一

琉球人の唐旅見聞談について◆真栄平房昭
近世における琉球人の日本漂着◆屋良健一郎

『大島筆記』をめぐる
唐手の「伝来」に関する一考察◆嘉手苅徹

『大島筆記』に記された琉球語◆橋尾直和
あとがき◆島村幸一
執筆者一覧

〔編者プロフィール〕

島村幸一（しまむら・こういち）

立正大学文学部教授。専門は琉球文学、琉球文化史。著書に『おもろさうし』と琉球文学（笠間書院、二〇一〇年）、『琉球文学の歴史叙述』（勉誠出版、二〇一五年）、『おもろさうし研究』（角川文化振興財団、二〇一七年）などがある。



本体 **10,000**円(+税)
A5判上製・472頁
ISBN 978-4-585-29197-8 C3095
2020年3月刊行

書名	部数
琉球船漂着者の「聞書」世界 『大島筆記』翻刻と研究 島村幸一 [編]	本体 10,000円(+税) A5判上製・472頁 ISBN 978-4-585-29197-8 C3095 2020年3月刊行
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本建築の 歴史的評価と その保存

山岸常人 [著]

(やまさし・つねと)

京都大学名誉教授。専門は日本建築史。
工学博士（東京大学）。
主な著書に『中世寺院社会と仏堂』（塙
書房、平成2年）、『中世寺院の僧団・
法会・文書』（東京大学出版会、平成
16年）、『塔と仏堂の旅 寺院建築から
歴史を読む』朝日選書772、朝日新聞社、
平成17年）などがある。

【目次】

序 歴史的建造物の調査・研究と保存

第一部 建築遺構の歴史的評価

第二部 近世寺社建築を読む
—— 調査方法と近世建築の特質 ——

第三部 地域における近世寺社建築の特質

第四部 民家の技法と特質

第五部 工匠と建築

第六部 発掘遺構の復元的考察

第七部 文化財建造物の保存修理の理念と方法

第八部 震災と文化財

あとがき／成稿一覧／図版・表出典一覧／索引

歴史的建造物をどのように調査するのか、
調査した建造物の特質をどのように読み取るのか、
その特質を踏まえてどのように保存を行ってゆくべきなのか、
その保存のための制度の課題は何か。
長年にわたり調査・研究・保存に携わってきた知見より、
歴史的建造物を保存し将来に伝えて行くための考え方と、
その具体的な事例を提示する。

本体 一七、〇〇〇円（+税）

B5判上製カバー装・六七二頁

二〇二〇年三月刊行

ISBN978-4-585-22268-2 C3021

書名	部数
日本建築の歴史的評価とその保存 山岸常人 [著]	部
本体 17,000円（+税） B5判上製カバー装・672頁 2020年3月刊行 ISBN978-4-585-22268-2 C3021	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

渋沢敬三と

アチック・ミュージアム

知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷

加藤幸治 [著]

著名な財界人であり、
日本民俗学の礎を築いた巨人、渋沢敬三。

「屋根裏」の名を冠した私設博物館兼研究所

「アチック・ミュージアム」を開設した彼のもとには、
多種多様な人々が集まり、
学問を紐帯としたある種の共同体が形成されていた…
人文学本来のかたちを体現する、

人びとの興味と能力が調和・共鳴し合いながら
互いの成長をはぐくむ共同空間を作り出した
渋沢とその仲間たちの営為・思想から、
文化創造のあり方を探る。

「人格的に平等にして而も
職業に専攻に性格に相異つた人々の力の総和が
数学的以上の価値を示す喜びを皆で共に味ひ度い。
ティームワークのハーモニアスデヴェロップメントだ。」
(渋沢敬三「アチック根元記(一)」、昭和十年より)

【著者紹介】

加藤幸治(かとうこうじ)

一九七三年生まれ。武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授。専門は日本民俗学。
主な著書に『復興キュレーション——語りのオーナードリップで作り伝える、くくじら
まち』(社会評論社、二〇一七年)、『文化遺産シェア時代——価値を深掘る、ずら
しの視覚』(社会評論社、二〇一八年)などがある。

本体三、五〇〇円(+税)・四六判並製カバー装・三六四頁
二〇二〇年一月刊行・ISBN978-4-585-22263-7 C1021

*「渋沢敬三(しづさわけいぞう)」……

一八九六(明治二十九年)年、東京生まれ。渋沢栄一の孫。東京帝国
大学経済学部卒業後、横浜正金銀行に入行、その後第一銀行に
入り、取締役、副頭取を歴任し、一九四二年に日本銀行副総裁に
転出。一九四四年総裁に昇任。一九四五年には大蔵大臣(幣原内
閣)に就任。日本の経済界に多くの貢献をした。
また、若き日の柳田國男との出会いから民俗学に傾倒し、港区
三田の自邸車庫の屋根裏に、私設博物館「アチック・ミュージア
ム」を開設(第二次大戦中に「日本常民文化研究所」と改称)。ア
チックの同人らとともに纏めた『豆州内浦漁民史料』を刊行し、
一九四〇年日本農学賞を受賞。他に『日本釣魚技術史小考』『日
本魚名集覧』『塩俗問答集』などを著した。
東京近郊の保谷に民族学協会附属博物館を開設し、実業史博物
館の建設を構想するなど、戦後の博物館・アーカイブス・文化財
保護の礎を築いた。

【まえがき】

はじめに——なぜ今、渋沢敬三なのか

第一章 学問の形成

第一節 いかにも生きるかの模索 / 第二節 経済史的思考の確立

第二章 学問の萌芽

第一節 博物館的思考の形成 / 第二節 アチック・ミュージアム・再起動

第三節 研究のコミュニケーション形成

第三章 学問の開花

第一節 民具研究の実像 / 第二節 漁業史研究の実像

第三節 項目調査と郵便の活用

おわりに——渋沢敬三の学問の流儀と人文学のこれから

あとがき / 参考文献一覧 / アチック・ミュージアム刊行物一覧

書名	部数
渋沢敬三とアチック・ミュージアム 知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷 加藤幸治 [著]	本体3,500円(+税) 四六判並製カバー装・364頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22263-7 C1021
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

『歴史がおわるまえに』(亜紀書房刊)の姉妹編ついに刊行!

不毛な論争に終止符を打つ、気鋭の歴史学者による最後の論文集!

荒れ野の六十年

東アジア世界の歴史地政学

與那覇潤 [著]

東アジアで共有できる歴史を

かつてこの理想が追い求められた時代があった。
しかし、なぜ共有したいのだろうか。

やり過ぎしあうだけでは
どうしていけないのだろう。

そうした欲求は、
日清戦争の開戦から朝鮮戦争の休戦までの

『荒れ野の六十年』が残した近代の爪痕に
すぎなかったのではないか。

この地域が抱える絶望的な摩擦の根源へ、
古典と最新の研究の双方を対照して

迫った先に見えてくる、
あたらしい共存の地平とは――。

與那覇潤 (よなは・じゅん)

一九七九年生まれ。東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)。
専門は日本近現代史。二〇〇七年から十五年にかけて地方公立大学准教授として教鞭をとり、重度のうつによる休職をへて二〇一七年離職。
業績に『翻訳の政治学』(岩波書店)、『帝国の残影』(NTT出版)。在職時の講義録に『中国化する日本』(文春文庫)、『日本人はなぜ存在するか』(集英社文庫)。共著多数。二〇一八年に病気の体験を踏まえて現代の反知性主義に新たな光をあてた『知性は死なない』(文藝春秋)を発表し、執筆活動を再開。本書の姉妹編として、学者時代の時評と対談を中心に集めた『歴史がおわるまえに』(亜紀書房)がある。

目次

まえがき―廃墟に棲む人のために

I 西洋化のとまった世界で一同時代への提言

- 1 三つの時代と「日中関係」の終わり―今こそ読みなおす山本七平
- 2 再近世化する世界?―東アジア史から見た国際社会論
- 3 中国化する公共圏?―東アジア史から見た市民社会論

【補論I】社会の「支え方」の日中比較史

―陶徳民ほか編『東アジアにおける公益思想の変容―近世から近代へ』書評

II 歴史のよみがえりのために―古典にさがす普遍

- 4 革命と背信のあいだ―逆光のなかの内藤湖南
- 5 史学の黙示録―『新支那論』ノート
- 6 変えてゆくためのことば―二十世紀体験としての網野善彦
- 7 無縁論の空転―網野善彦はいかに誤読されたか

【補論II】社会科学にとって歴史とは何か

―久米郁男『原因を推論する―政治分析方法論のすゝめ』書評

III もういちどの共生をめざして―植民地に耳をすます

- 8 帝国に「近代」はあったか―未完のポストコロニアリズムと日本思想史学
- 9 荒れ野の六十年―植民地統治の思想とアイデンティティ再定義の様相
- 10 靖国なき「国体」は可能か―戦後言論史のなかの「小島史観」

【補論III】ノンフィクションに学ぶ、「中国化」した世界の生き抜き方

あとがき―収録作品解題

本体3,200円(+税)

四六判上製カバー装・392頁

2020年1月刊行

ISBN978-4-585-22264-4 C1020

書名	部数
荒れ野の六十年 東アジア世界の歴史地政学 與那覇潤 [著]	本体3,200円(+税) 四六判上製カバー装・392頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22264-4 C1020
ご送付先ご住所 (通信欄)	

日本画の所在

東アジアの視点から

北澤憲昭・古田亮 [編]

西洋との邂逅により近代絵画としての「日本画」が誕生して百余年。近年のグローバル化による展開、東アジアをめぐる情勢の変化は、「日本画」を現代へと続く未解決問題（プロブレマティク）として浮かび上がらせることとなった。

「日本画」はどこから来たのだろうか。今、どこを生きているだろうか。

そして、これからどこへ行くのだろうか……

〈歴史〉〈領域〉〈表現〉という3つの視点から、東アジアという場における「日本画」の形成・展開の諸相を歴史的・文化的に把握し、「日本画」の概念を未来へとひらく画期的成果。

掲載図版
115点!



横山大観筆「游刃有余地」
(出典：国立博物館所蔵品統合検索システム
(<https://colbase.nich.go.jp/collectionItems/view/12f08f3c06a62af80737925634848303/18242>))

【编者紹介】

北澤憲昭 (きたざわのりあき) 一九五一年生まれ。女子美術大学名誉教授。表象文化論学会会員。専門は美術批評、美術史。著書に『日本画の転位』(ブリュッケ、二〇〇三年)、『定本 眼の神殿——「美術」受容史ノート』(ブリュッケ、二〇一〇年)、『(列島)の絵画——「日本画」のレイト・スタイル』(ブリュッケ、二〇一五年)などがある。

古田 亮 (ふるた りょう) 一九六四年生まれ。東京藝術大学大学院美術館准教授。専門は日本近代美術史。著書に『視覚と心象の日本美術史』(ミネルヴァ書房、二〇一四年)、『特講 漱石の美術世界』(岩波書店、二〇一四年)、『日本画とは何だったのか 近代日本画史論』(KADOKAWA、二〇一八年)などがある。



荒木寛歌筆「群中双鶏」(出典：国立博物館所蔵品統合検索システム
(<https://colbase.nich.go.jp/collectionItems/view/12f08f3c06a62af80737925634848303/300>))

【目次】

緒言 ● 古田亮

序論 東アジアのなかの日本画、日本画のなかの東アジア ● 北澤憲昭

I 「歴史」

近代の日本画 その展開と諸様式 ● 古田亮

「NHONGA」とは何か?——作品制作と展示の具体的観点から ● チェルシー・フォックススウェル

「日本画」のソフトは何か ● 佐藤道信

「描く」絵画から「塗る」絵画へ(再考) ● 塩谷純

【特論】東アジア絵画への眼差し——近代「日本画」成立以前 ● 板倉聖哲

II 「領域」

「日本画」の主題と表現——アジアとの関係の中で ● 天野一夫

東アジアの近現代絵画——各国の現場レポートから ● 荒井経

東京芸術大学日本画の一九八〇年代をめぐって
——教員、カリキュラム、入試の変遷から ● 齋藤典彦

東北画は可能か? Is Tohoku painting possible? ● 三瀬夏之介

【特別寄稿】中国における「岩彩絵画」の現状 ● 胡明哲

III 「表現」

現代「日本画」と東アジア——東洋絵画へのまなざし ● 野地耕一郎

日本画考——創作と教育の現場から ● 間島秀徳

【特別寄稿】絵は、線であり、残骸であり、ゆらぎない。 ● 岡村桂三郎

【特別寄稿】「日本画」ではなく「日本の絵画」の特質を考へ ● 峯村敏明

シンポジウム記録

集中討議「日本画の行方」概要 ● 加藤弘子

あとがき ● 北澤憲昭

A5判上製カバー装・カラー口絵一六頁・本文三〇四頁
二〇二〇年四月刊行・ISBN978-4-585-27055-3・C3071

本体六,五〇〇円(+税)

書名	部数
日本画の所在 東アジアの視点から 北澤憲昭・古田亮 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体6,500円(+税)
A5判上製カバー装
カラー口絵16頁・本文304頁
2020年4月刊行
ISBN978-4-585-27055-3・C3071

描かれたマカオ

ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史

貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 [編著]

本体 **22,000** 円(+税)

A4判上製カバー装
238頁(うちカラー120頁)
2020年4月刊行
ISBN978-4-585-22262-0 C3022

マカオ返還20周年。

失われたマカオの極彩色の姿がフルカラーでよみがえる!

ポルトガルの植民地、東西貿易の継承地、キリスト教布教の拠点として栄え、
いまや教会や歴史遺産、カジノやモータースポーツで世界的観光地となったマカオ。
アヘン戦争などによって世界史がおおきく揺れた18~19世紀のマカオを描く版画・水彩画・写真などから当時のマカオの光と影を読み解くとともに、その未来像を探る。

図版**150点以上!!**
全編、日英併記

目次

巻頭言

地図

◆Part 1: 図版

資料解題…●黄淑薇

I.海と都市/II.人びとの生活/III.外国人の表象/IV.宗教/V.香港/VI.広東

◆Part 2: 解説

第1章 ダーウェント・コレクションと私…●ブライアン・カスバートソン

第2章 マカオの歴史と重要性
—香港および中国との関係という視点から…●朱益宜

第3章 近代の日本とマカオ、そしてポルトガル
—香港および中国との関係という視点から…●岡美穂子

第4章 19世紀のマカオの暮らし…●グラッサ・パシエコ・ジョルジェ

第5章 アジアにおけるキリスト教とマカオ…●朱益宜

結語 絵画から写真へ
—ダーウェント・コレクションの意義とマカオ・イメージの変容…●貴志俊彦

◎マカオ史年表(18-19世紀)…●貴志俊彦、岡美穂子、朱益宜

◎ブックガイド…●貴志俊彦、岡美穂子、朱益宜

◎作品リスト…●黄淑薇・貴志俊彦



編著者プロフィール

貴志俊彦(きし としひこ)

京都大学東南アジア地域研究研究所・教授。専門は20世紀の東アジア史。編著書に『古写真・絵葉書で旅する東アジア150年』(共編著、勉誠出版、2018年)、『京都大学人文科学研究所蔵華北交通写真資料集成』全2巻(共編著、国書刊行会、2016年)、『満洲国のビジュアル・メディア—ポスター・絵はがき・切手』(吉川弘文館、2010年)など多数。

朱益宜(Cindy Yik-yi Chu) 香港浸会大学歴史系・教授。

黄淑薇(Suk Mei Irene Wong)
香港浸会大学図書館・高級助理館長。

書名	部数
描かれたマカオ ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史 貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 [編著]	本体 22,000 円(+税) A4判上製カバー装・238頁(うちカラー120頁) 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-22262-0 C3022
ご送付先ご住所(通信欄)	

日本書紀声点本の研究

鈴木 豊 [著]

目次

はしがき／凡例

序論

第I部 『日本書紀』声点本の資料価値に関する研究

- 第1章 『日本書紀』神代巻の声点
第2章 乾元本紀所引『日本書紀』の声点について
第3章 乾元本『日本書紀』万葉仮名訓の声点
第4章 岩崎本『日本書紀』の声点
第5章 訓読漢字の声点のアクセント表示法
第6章 『日本書紀』被訓注字の声点
第7章 『古語拾遺』の声点
第8章 『日本書紀』声点本の濁音表示
第9章 『古語拾遺』声点本の濁音表示
第10章 『日本書紀』a群の万葉仮名
——原音声調と日本語アクセントとの対応——

第II部 『日本書紀』声点本の成立過程に関する研究

- 第1章 『弘仁私記』序の「以丹点明輕重」
第2章 乾元本紀所引『日本書紀』の万葉仮名
第3章 『日本書紀』古写本中の万葉仮名表記の和訓
（付）『日本書紀』古写本中の万葉仮名訓語彙索引
第4章 『和名抄』所引『公望私記』の万葉仮名訓
第5章 延喜『公望私記』の構造
第6章 日本書紀講書とアクセント

第III部 平安時代京都アクセントに関する研究

- 第1章 和語声点資料の差声方式
第2章 助詞「の」のアクセント
第3章 アクセント史研究における拍内下降
第4章 平声軽点の消滅過程
第5章 アクセント体系大変化の要因
第6章 『金光明最勝王經音義』所載「以呂波」のアクセント
第7章 いろは歌の作者について——いろは48字説の検討——

結論

参考文献／あとがき／初出一覧

『日本書紀』古写本が
伝えてきたものは何か——七二〇年(養老四)に正史として撰進された『日本書紀』は、
天皇・文人貴族らによる講書、そしてその読み方を
書き入れた写本などの形で伝えられ、
古辞書・注釈書類にもその成果が取り込まれるなど、
これらの学問の痕跡は古代の和訓・アクセントを
今に伝える貴重な資料群である。『日本書紀』古写本および関連資料に残された
和訓・声点を網羅的に調査・検討、さらにそれらが付され伝えられていったその過程を
明らかにすることにより、古代日本語の学問体系や
アクセント史における新知見を提示する。

著者プロフィール

鈴木 豊(すずき・ゆたか)

文京学院大学外国語学部教授。専門は日本語学。

著書・論文に『日本語アクセント史総合資料 索引篇』『同研究篇』(秋永一枝・上野和昭・坂本清恵・佐藤栄作氏と共編、東京堂出版、一九九七・一九九八年)、『日本書紀神皇卷諸本声点付語彙索引』(アクセント史資料研究会、二〇〇三年)、『連濁研究史——ライマンの法則を中心に——』(テイモシー・J・バンス、金子恵美子、渡邊靖史編『連濁の研究——国立国語研究所プロジェクト論文選集』開拓社、二〇一七年)などがある。

本体 一四、〇〇〇円(+税)
B5判上製カバー装・四六四頁
二〇二〇年四月刊行
ISBN978-4-585-28048-4 C3081

書名	部数
日本書紀 声点本の研究	部
鈴木豊 [著]	
本体 14,000円(+税) B5判上製・カバー装 464頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28048-4 C3081	
ご送付先ご住所(通信欄)	

龍谷大学図書館蔵

くろだにしょうにんごとうろく
げんこうばん

黒谷上人語燈録

元亨版 翻刻および総索引

佐々木勇【主編】

宗祖法然上人の法語・消息をまとめて伝える

浄土宗・浄土真宗における貴重文献

『黒谷上人語燈録』

完本として最古かつ唯一の伝本である

龍谷大学図書館蔵元亨元年(一一三二)刊本の全編を、
同時代に付された訓点・振り仮名を含め、詳細に翻刻。

さらに語彙索引・漢字索引を具備し、
仏教学のみならず、古代における

日常語・口頭語研究、言語位相論的研究、
漢文訓読史研究等、諸分野の研究に裨益する決定版。

【主編者プロフィール】

佐々木勇 (ささき・いさむ)

広島大学大学院・教授。

『平安鎌倉時代における日本漢音の研究』(汲古書院、二〇〇九年)、『徒然草』
第九十二段の「得失」——文献学による古典本文確定の例として——(『国語
國文』87(3)、臨川書店、二〇一八年三月)などがある。

【目次】

カラー口絵
緒言……佐々木勇

【本文篇】

凡例

本文翻刻

【索引篇】

語彙総索引

あ行／か行／さ行／
た行／な行／は行／ま行／や行／ら行／わ行
漢字索引

【研究篇】

日本語史資料としての

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』……佐々木勇

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の

才段拗長音表記……坂水貴司

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の

仮名文字遣い……土肥新一郎

後記……佐々木勇



法然上人絵傳 東京国立博物館蔵
(出典 = 国立博物館所蔵品統合検索システム (https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-1599?locale=ja))

本体 一八、〇〇〇円(+税)
B5判上製カバー装・六四二頁
二〇二〇年四月刊行
ISBN978-4-585-28050-7 C3081

書名	龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引 佐々木勇【主編】	部数	部
価格	本体 18,000円(+税)		
	B5判上製カバー装・642頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28050-7 C3081		
ご送付先ご住所 (通信欄)			

近世後期テニヲハ論の

展開と活用研究

遠藤佳那子〔著〕

日本語文法研究史を辿るための必読書！

漢文訓読や歌論・連歌論等、

日本語に関わる人々の関心事であり続けた「テニヲハ」。

近世後期に入ると、国学者たちはテニヲハの研究を深め、
陸続と語学書や活用表が編まれた。

現代とは異なる範囲と尺度を持つその活用表は、
語学的な営為の結晶であるとともに

歌学・古典学の精髓でもあった。

近世の伝統的なテニヲハ研究を、

動詞の活用研究との関係から辿り、

近代的文法研究にどのような影響を与えたのかを検討。

国学研究の地平に肉薄し、その射程を読み解く。

附録として未発表資料、

黒川真頼『詞の栞』影印・翻刻を掲載。

〔平成三十年度 新村出記念財団重山文庫 刊行助成出版〕

*「テニヲハ」とは…

助詞・助動詞のことを指す。「テニヲハ」という用語はヲコト
点の四隅にある点が起源とされ、はじめは漢文訓読や和文の
漢字表記を試みる過程において問題とされた。その一方で、
歌論や連歌論の世界でも和歌や連歌を創作する際に、歌の出
来を左右する要として重要視されたため、「テニヲハ」は最重
要項目の位置を占めた。

〔目次〕

口絵 黒川真頼 草稿『詞の栞』影印
巻頭言◎服部隆
はじめに／序章

第一部 完了「リ」の学説史

- 第一章 完了「リ」考——鈴木服まで
- 第二章 完了「リ」考——本居春庭以降
- 第三章 「自他」再考

第二部 命令形の学説史

- 第四章 「命令形」考
- 第五章 続「命令形」考——明治前期における
- 第六章 「属」考——意味分類の試み

第三部 八衢の系譜

- 第七章 黒川真頼の活用研究と草稿『語学雑図』
- 第八章 黒川真頼における『詞八衢』の受容と展開

終章

おわりに

- 〔附録一〕東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録（語学
之部）小型本／黒川文庫小型本 調査報告
 - 〔附録二〕黒川真頼 草稿『詞の栞』影印・翻刻（一部）
 - 〔附録三〕黒川真頼『詞乃栞打聴』翻刻
- 参考文献・引用文献一覧／初出一覧／索引

〔著者紹介〕

遠藤佳那子（えんどう かなこ）一九八六年生。上智大学大学院
文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学。博士（文学）。現在
都留文科大学・フェリス学院大学・実践女子大学非常勤講師。専
門は日本語学、日本語学史。主な論文に「自他」再考——近世テニ
ヲハ論における（『上智大学国文学論集』50、2017年）、明治
前期の活用表における「命令形」（『日本近代語研究』6、2017
年）、黒川真頼における「詞八衢」の受容と展開（『国語と国文学』
94、2017年）などがある。

本体 八、〇〇〇円（+税）

A5判上製カバー装・三四四頁

二〇二〇年一月刊行

ISBN978-4-585-28047-7 C3081

部数

本体 8,000円(+税)

A5判上製カバー装・344頁

2020年1月刊行

ISBN978-4-585-28047-7 C3081

部

書名

近世後期テニヲハ論の展開と活用研究

遠藤佳那子〔著〕

ご送付先ご住所（通信欄）

論究 日本近代語 第1集

日本近代語研究会 [編]

創刊!

広義の日本近代語における歴史と構造を、
文字、文法、語彙といった日本語学の
観点から詳細に分析した、
日本文学、日本史学、日本語教育学、
表現論などの分野にも資する論文集。

第1集【目次】

創刊の辞 ■日本近代語研究会

連語から見た『徒然草』第1部・第2部

—接続機能表現のプレ近代化と文体— ■安部 清哉

キリシタン版辞書での同音異義と一語多義 ■豊島 正之

キリシタン版『日葡辞書』「序文」の二重印刷に見る編纂方針について ■中野 遙

ミギテの通時的考察

—「右の手」(右の方)を表す周辺語句の変遷との関わりを中心に— ■木川 あづさ

『雑字類編』の書き入れ語—「福恵全書」との関連を巡って— ■荒尾 禎秀

『語学新書』における格理解

—国学の言語研究をどのように取り入れたか— ■服部 紀子

明治期の漢字の「かたち」について—『天変地異』を資料として— ■今野 真二

『世界商売往来』の依拠資料について ■丸山 健一郎

[[校正/増補]漢語字類]における漢字字形のバリエーションについて ■内田 久美子

日本における「ウラジオストク」の漢字表記 ■シャルコ アンナ

『言海』校正刷における漢字字体/字形について ■小野 春菜

「續々金色夜叉續編」・「新續金色夜叉」の四種本文対照

—『讀賣新聞』、『新小説』、『紅葉全集』、『七版續々金色夜叉』— ■許 哲

日本統治期台湾の初等国語教科書における一人称代名詞

—国定教科書との比較を通して— ■山田 実樹

テキストアナリシスによる明治期日本語教科書『日語活法』の検証 ■伊藤 孝行

宏文学院の日本語教師編纂の会話教科書における謙讓表現

—『東語会話大成』を中心に— ■薛 静

台湾の日本語教育月刊誌『国光』(昭和7年創刊)における投稿文の資料性

—誤用と誤文訂正を中心に— ■園田 博文

日仏オノマトペの対照

—宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』と*Gauche le violoncelliste*— ■瀬川 愛美

上田万年をマンネンと呼ぶは礼か非礼か

—近代日本における〈名の字音読み〉習俗の人称— ■三浦 直人

「わりに」[割合に]の歴史の変遷

—接続助詞用法と副詞用法の関連を中心に— ■川島 拓馬

丁寧体否定形式「～ませんです」の動向

—「国会会議録検索システム」を例に— ■神作 晋一

日本語教育における授受表現の効果的な教え方と

そこに見る日本人の「ウチとソト」感覚 ■木下 哲生

現代語における接続助詞の用法のトコロヲについて ■佐伯 暁子

職場の会話における副詞の使用—職場談話コーパスを調査資料として— ■吳 雨

「なるほど」考—応答表現としての意味・用法— ■蒔宿 紀子

現代語の副助詞デモの各用法について

—いわゆる「譲歩」「極端」と「例示」の関係について— ■星野 佳之

索引/執筆者一覧

編集後記 ■小野正弘

日本近代語研究会

(にほんきんだいごけんきゅうかい)

1982年に「青年近代語研究会」として発足した(1984年1月から「近代語研究会」、2011年5月から現在の名称)、広い意味での近代語(室町時代以降の日本語)に関する研究者の集まり。年十回の研究発表会および『論究 日本近代語』刊行の事業を行う。

本体 15,000 円(+税)

A5判上製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-28521-2 C3081
2020年3月刊行

書名	部数
論究 日本近代語 第1集	部
日本近代語研究会 [編]	部
本体 15,000 円(+税)	
A5判上製カバー装・424頁	
2020年3月刊行	
ISBN978-4-585-28521-2 C3081	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

サハ語文法

統語的派生と言語類型論的特異性

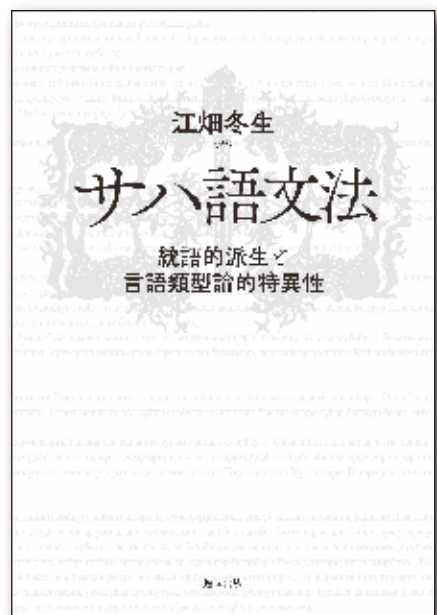
江畑冬生 [著]

日本の真北にあたる東シベリアで話されているチュルク系言語。
長年のフィールド調査による記述研究から、
一見すると複雑なサハ語の形態音韻交替や形態統語法を
言語研究一般へも資する形で整理する。
統語的派生、二重対格使役文、非人称受動文などの
言語類型論的な特異性にも注目。

サハ語の初の記述研究書！

【目次】

はじめに	本書の特色・構成・データと出典
図表一覧	
略号一覧	
第1章	サハ語の概要
第2章	形態音韻交替
第3章	名詞類の形態統語法の概要
第4章	動詞の形態統語法の概要
第5章	主節述語に付加する接辞と文末接語
第6章	語彙的派生と統語的派生
第7章	名詞類の分類と統語機能
第8章	ボイス接辞による派生と非典型的構文
第9章	目的語の形式選択に関わる要因
第10章	サハ語の特質
参考文献	
あとがき	
附録	主な屈折接辞と活用表 用語・言語名索引



【著者プロフィール】

江畑冬生 (えばた・ふゆき)

新潟大学人文学部・准教授。専門は言語学、チュルク諸語研究(特にサハ語およびトゥバ語を現地調査により研究)。2012年に博士論文『サハ語名詞類の研究——接辞法と統語機能を中心に——』を東京大学大学院に提出し、博士号を取得。
主な論文に「サハ語(ヤクート語)の「双数」の解釈——聞き手の数からの分析——」(『言語研究』151号, 63-74.)や「トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-*dir*の機能——話し手・聞き手の認識からの説明——」(『北方言語研究』第9号, 31-39.)がある。

👉…詳細情報は裏面をご覧ください。

書名	部数
サハ語文法 統語的派生と言語類型論的特異性 江畑冬生 [著]	本体 9,800円(+税) A5判上製カバー装・264頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28049-1 C3087
ご送付先ご住所 (通信欄)	

[本書の特色]

第一に、シベリアの少数民族言語であるサハ語の体系的文法記述を行っていることである。サハ語は、ユーラシア大陸の東西に分布する約30ほどのチュルク諸語のうち、最も北東端で話される言語である。チュルク諸語の言語構造は、互いに良く似ているとされる。たしかに、サハ語の複数接辞・所有接辞・格接辞などの文法形式や文の作り方は、他のチュルク諸語と極めて類似する。しかしながらサハ語文法を仔細に眺めると、見かけ上の類似以上に、文法形式の義務性などにおける大きな違いも見えてくる。チュルク諸語の文法書はいくつか出版されているが、研究書はごくわずかしかない。その意味で本書は、単にサハ語文法記述に留まらない価値も持っている。

第二に、サハ語における見かけ上は複雑な現象における規則性を解きほぐしている点がある。サハ語は、形態音韻交替が豊かな点に1つの特色がある。主として母音調和と頭子音交替規則が働くことにより、大半の接尾辞は16種前後の異形態を持つ。接辞付加の際には、接辞だけではなく語幹にも交替が生じる場合がある。しかも複数の交替規則が同時に働くことがあるため、形態音韻交替は極めて複雑に見える。本書で提案する交替規則の整理と語幹の分類は、一見すると複雑な形態音韻交替を規則的・統一的に説明しようとするものである。文法面でも、目的語に3種類の格(主格・対格・分格)が見られる。本書では、形式的要因と語用論的要因を整理し規則の優先順位を定めることで、3つの格の使い分けルールを分かりやすく捉えることを試みる。

第三に、サハ語の形態法上の大きな特徴である派生形態法の記述が挙げられる。サハ語の派生形態法では、語彙的緊密性に反する派生を生産的に行うことが可能である。派生形態法のこの性質は、伝統的な記述文法の立場からも理論言語学的な立場からも特異である。本書ではこのような派生を統語的派生と呼び、統語的關係を内包する派生が可能であると主張する。統語的派生は、非人称受動文や二重対格使役文のような言語類型論的に非典型的な構文を生むことにもなる。

[目次]

はじめに 本書の特色・構成・データと出典

図表一覧

略号一覧

第1章 サハ語の概要

現在の言語状況と系統／音韻の概要／母音調和／アクセント／品詞分類の概要／形態法の概要／統語法の概要

コラム1: [k]と[x]は同一音素の異音であるか

第2章 形態音韻交替

交替の生じる場所と要因の整理／音韻的要因による接辞の交替／音韻的要因による語幹の交替／形態的要因による接辞の交替／形態的要因による語幹の交替／接辞に生じる不規則交替／語幹に生じる不規則交替／語幹の分類と母音脱落語幹／トゥバ語における交替との対照／本章のまとめ

コラム2: *bultaa*「狩る」は *bult*+*-aa* と分析可能か?

第3章 名詞類の形態統語法の概要

名詞形態法の概要／名詞語幹に付加する屈折接辞／名詞語幹に付加する派生接辞／数詞語幹に付加する接尾辞／名詞統語法の概要／本章のまとめ

コラム3: 複数接辞と3人称複数所有接辞の連続

第4章 動詞の形態統語法の概要

動詞形態法の概要／動詞語幹に付加する屈折接辞／動詞語幹に付加する派生接辞／動詞統語法の概要／本章のまとめ

コラム4: 再帰代名詞 *beje*「自身」および全部代名詞 *bari*「皆」を含む句における1・2人称所有接辞の振る舞い

第5章 主節述語に付加する接辞と文末接語

主節述語の構造の概要／文の種類を表す屈折接辞／対事的モダリティの文末接語／対人的モダリティの文末接語／文末接語の分類と形態統語的振る舞いの相関／本章のまとめ

コラム5: 所有接辞の非句末形は属格の痕跡と言えるか

第6章 語彙的派生と統語的派生

統語的派生の類型論的特異性／名詞類から名詞類への派生／名詞類から動詞への派生／動詞から名詞類への派生／動詞から動詞への派生／語彙的派生・統語的派生・屈折の連続性／統語的派生の解釈と位置づけ／本章のまとめ

コラム6: サハ語文法に「双数」の文法概念は必要であるか

第7章 名詞類の分類と統語機能

従来の名詞類分類における問題点／名詞語幹の名詞句機能・連体修飾機能・副詞句機能／統語機能から見た単純語の分類／統語機能から見た派生語の分類／句および節の統語機能／接辞付加による統語機能の単一化／本章のまとめ

コラム7: *propriative*の接尾辞 *-LEEX*の多機能性

第8章 ボイス接辞による派生と非典型的構文

サハ語のボイスの概略／使役文: 二重対格使役を中心に／受動文: 非人称受動を中心に／再帰接辞と逆使役接辞の区別／本章のまとめ

コラム8: 母音語幹動詞と子音語幹動詞

第9章 目的語の形式選択に関わる要因

目的語として現れる3種の形式／デフォルトとしての対格標示／分格標示の成立条件／はだか名詞形目的語の成立条件／系統的・地理的に見た分格／本章のまとめ

コラム9: 名詞語幹の単数主格形とはだか名詞形の違い

第10章 サハ語の特質

形態音韻交替の規則性と全面性／名詞類の分類と統語機能／名詞類の形態統語法と動詞の形態統語法／統語的派生と語彙的緊密性／系統的・地理的に見たサハ語

参考文献

あとがき

附録 主な屈折接辞と活用表

用語・言語名索引

国宝

漢書楊雄伝 第五十七

かんじよ ようゆうでん

本体二五、〇〇〇円(+税)

A3判変形上製・函入特装本・一〇八頁

二〇一九年十二月刊行

ISBN978-4-585-28046-0 C3080

京都国立博物館 [原本所蔵・編]

石塚晴通 北海道大学名誉教授
東洋文庫研究員

上杉智英 京都国立博物館
美術室研究員

[解説]

小助川貞次 富山大学教授

現存最古、唯一の唐代写本を

原寸原色復元。

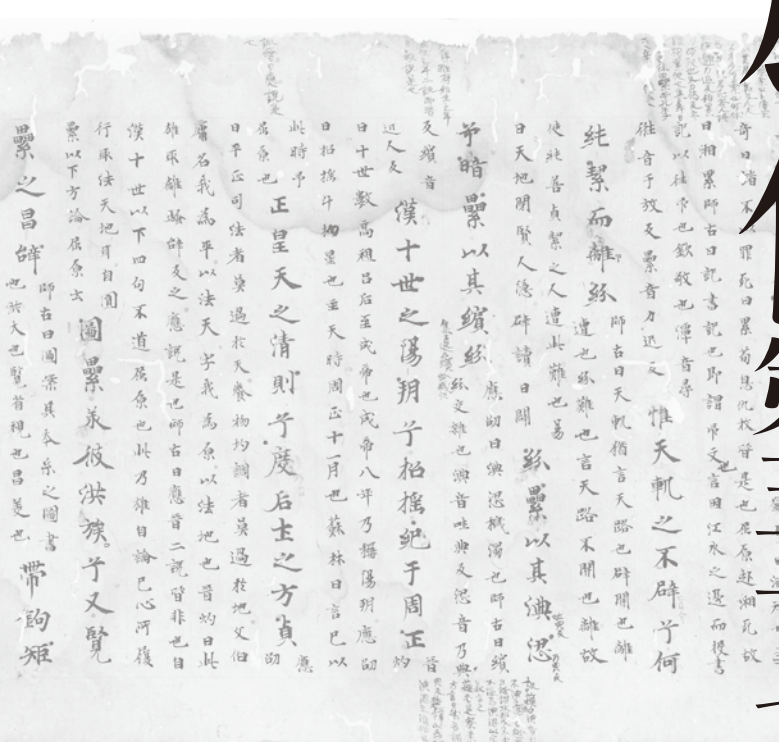
筆跡・紙質・多色詳密な訓点を再現。

目次

- 序文
- 影印
- 解題
- 書誌解題……上杉智英
- 本文・訓点解題……石塚晴通・小助川貞次

本書の特長

- 漢書楊雄伝の現存最古、唯一の唐代写本(京都国立博物館所蔵)の全編を原寸・原色にて影印。
- 高精細デジタル撮影により訓点・筆勢・筆致・紙質形状・美観など文化財の現在の状況を余すところなく再現。
- 上杉智英・石塚晴通・小助川貞次による新知見を含む解題を付し、国宝『漢書楊雄伝』の文化史的位置づけを明らかにした。



*『漢書』とは……

中国の正史、二十四史の一つとされる。一〇〇巻。後漢の文人、班固(三二〜九二)の撰。前漢の高祖より王莽の地皇四年までの二二九年間(紀元前二〇六〜後二三)の史事を紀伝体にて記す断代史。帝紀一二巻・表八巻・志一〇巻・列伝七〇巻より成る。

*「楊雄」とは……

字は子雲。漢の蜀郡(現・四川省)成都の人。前漢時代末期の文人、学者、哲学者。揚雄とも。若い頃から辞賦作りに没頭し、都・長安に登ると官途に就いた。「甘泉賦」「長揚賦」など優れた辞賦を残し、その後は、学者として「太玄経」「法言」「方言」などの著作を世に輩出した。

書名

国宝 漢書楊雄伝 第五十七

京都国立博物館 [原本所蔵・編]
石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 [解説]

通信欄

部数

本体 35,000円(+税)

A3判変形上製・函入特装本・108頁
2019年12月刊行
ISBN978-4-585-28046-0 C3080

部

注
文
書

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

北原保雄〔著〕

続 岐点の軌跡

老いてなお岐点あり

日本語学者・北原保雄の
公私にわたる折々の記述

官職を数多く経験し、本も十分に出版した。
「我が人生に悔いなし」と思っていたが、
人生最大の岐路に遭遇し、
託された任務は、
衰退する地方私立大学のリリーフと
人口減少に悩む地方都市の再活性化。
日本の縮図のごとき地方の閉塞状況に挑んでみたが、
これほど勉強になったことはない。

前作『岐点の軌跡』刊行から8年。
続編、遂に刊行！



〔目次〕

はじめに——地方私立大学おこしの歩み

序章 平成二十三年(二〇一〇)

第一章 平成二十四年(二〇一一)

第二章 平成二十五年(二〇一二)

第三章 平成二十六年(二〇一三)

第四章 平成二十七年(二〇一四)

第五章 平成二十八年(二〇一五)

第六章 平成二十九年(二〇一六)

第七章 平成三十年(二〇一七)

第八章 平成三十一年(二〇一八)

第九章 令和元年(二〇一九)

あとがき

略年譜

主要著作一覧

〔著者プロフィール〕

北原保雄(きたはら・やすお)
筑波大学名誉教授。元学長。新潟産業大学名誉学長。
専門は日本語学、言語学、文学博士。

二〇一二年春瑞宝重光章受章。
二〇一八年秋文化庁創立50周年表彰受賞。

◎主な編著書

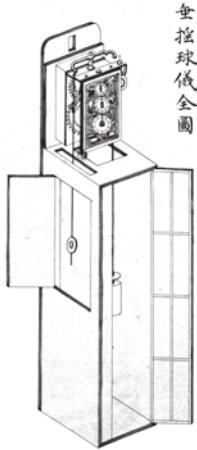
- 〔文法関係〕「日本語の世界6 日本語の文法」(中央公論社)、「日本語助動詞の研究」(日本語の形容詞)、「日本語の助動詞」(文法的に考える)、「表現文法の方法」(言葉は青いか)「問題な日本語」1~4(北原保雄の日本語文法セミナー)(以上、大修館書店)、「日本語文法の焦点」(教育出版)、「日本語文法事典」(有精堂)、「達人の日本語」(文春文庫)、「類義の日本語」(小学館文庫)、「しつくりこない日本語」(小学館新書)、「言葉の化粧」(集英社)など。
- 〔古典関係〕「天蔵虎明本狂言集の研究 本文篇」全3巻(共著、表現社)、「狂言記の研究」全4巻(狂言六義全注「延慶本平家物語 本文篇 索引篇」(以上、共著、勉誠社)、「舞の本」(共著、岩波書店)など。
- 〔辞典関係〕「古語大辞典」(共編、小学館)、「全訳古語例解辞典」(全文全訳古語辞典)(以上、小学館)、「反対語対照辞典」(共編、東京堂出版)、「日本国語大辞典 第二版」全13巻(共編、小学館)、「明鏡国語辞典」(明鏡社)とわご成句使い方辞典「日本語逆引き辞典」(以上、大修館書店)、「明鏡日漢詞典」(高等教育出版社・北京)など。

本体 4,500円(+税)
四六判上製カバー装・592頁
ISBN978-4-585-28503-8 C1081
2020年4月刊行

書名	部数
<p>続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり 北原保雄〔著〕</p>	<p>本体4,500円(+税) 四六判上製・カバー装592頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28503-8 C1081</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	

医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界

陳捷 [編]



全控球儀全圖



全體脈管図

知の沃野をひらく

東アジアの知の遺産、古典籍。

なかでも**医学・本草学・農学・科学**に関する書物は、
人びとの社会・生活に密着するものとして
広く流通・展開し、大きな一群をなしている。

これまで総合的に論じられることのなかった
東アジアにおける**情報伝達と文化交流の世界を、
地域・文理の枠を越えて考究する画期的論集。**

編者略歴

陳捷(ちん・しょう)

1963年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科教授。

専門は中国古典文献学・書物交流史。

主著に『明治前期日中学術交流の研究—清国駐日公使館の文化活動』(汲古書院、2003年)、『人物往来と書籍流転』(中華書局、2012年)、『日韓の書誌学と古典籍』(共編、アジア遊学184、勉誠出版、2015年)などがある。

目次

まえがき

第一部 医学

- 日中韓越の医書流通と医学体系の形成●真柳 誠
- 『福田方』『悲田方』の構成と復元の可能性●浦山きか
- 日本における中国舌診書『敖氏傷寒金鏡録』の受容●梁嶸(黄昱・訳)
- 東アジア伝統医学の真髄
 - 朝鮮許浚の『東医宝鑑』●朴現圭(黄昱・訳)
- 国立公文書館所蔵の朝鮮通信使の医学筆談●梁永宣・李敏(小野泰教・訳)
- 崔漢綺が読んだ西洋医学書
 - Hobson(合信)の医書と崔漢綺の『身機踐験』●金哲央
- 清末の漢文西洋薬学書におけるアヘンの記述について●小野泰教

第二部 科学

- 『新製靈台儀象志』の受容●吉田 忠
- テキストの鏡影
 - 抜粋本と清初の暦算学●祝平一(高津 孝・訳)
- 18世紀朝鮮の実学者洪大容の『劉鮑問答』
 - 西洋科学知識受容の一断面●任正嫻
- 葛飾北斎『唐土名所之絵』と中国地図の受容●大澤顯浩

第三部 博物

- 経学註釈と博物学の間
 - 江戸時代の『詩経』名物学について●陳捷
- 近世中国知識人の博物学の再構築
 - 方以智『通雅』と『物理小識』を中心に●廖肇亨(千賀由佳・訳)
- 交錯する視線—南西諸島の博物学●高津 孝
- 青蒿と黄花蒿の名物学的研究
 - ラテン名比定の問題を中心に●久保輝幸

第四部 人と書物

- 平賀源内伝の再検討
 - 『平賀実記』を中心に●福田安典
- 洋学者・柴田収蔵と江戸の本屋●平野 恵
- 近世後期における地方知識層の書物交流
 - 伊藤忠岱の書写活動を中心として●清水信子
- 医籍専売書肆英蘭堂島村利助について●鈴木俊幸

あとがき

書 名	部 数
医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界 陳捷 [編]	本体12,000円(+税) A5判上製カバー装・456頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-20072-7 C3000
ご送付先ご住所 (通信欄)	

水門

言葉と歴史

No.29

小特集 古辞書と近世絵入り百科事典

本体 3,500円(+税)

A5判・並製・360頁

ISBN978-4-585-22443-3 C1320

2020年1月刊行

水門の会「編」

歴史文化研究の交流拠点、開港。

歴史学・文学・言語学・民俗学など諸学の粋を集め、ジャンルを越えた新たな学問世界への扉を開く。

もくじ

小特集 古辞書と近世絵入り百科事典

『倭名類聚抄』所引『文選』注釈考◎洲脇武志

『和名類聚抄』牛馬病一部に関する一考察

——和訓「多利」を中心に◎アントニオ・マニエーリ

『医心方』所引『黄帝内経太素』攷——その引用手法を中心に◎李 芊

幼学書・手習い書と『訓蒙図彙』

——寛文版本の四字句・上下二対の構成をめぐって◎楊 世瑾

『和漢三才図会』「水草」類の構成と配列——『本草綱目』との比較から◎楊 亜麗

貝原益軒撰『花譜』から『大和本草』へ

——《植物の観賞》の概念の成立をめぐって◎郭 崇

古辞書と近世絵入り百科事典◎安保博史・藏中しのぶ

* * *

『東大寺諷誦文稿』「釈迦本縁」・「慈悲徳」についての基礎的考察◎藤本 誠

『伊勢物語』第九段と岑参『逢入京使』◎中野方子

「雪」の本文の（規範化）について——『中右記部類紙背漢詩集』を中心に◎布村浩一

仮名草子『酒茶論』の成立背景について

——敦煌本『茶酒論』の享受という視点から◎佐々木雷太

作家「秋田實」登場とその時代◎浦 和男

書評・鈴鹿千代乃著『古代からの風 神話・伝承・祭祀』を読む◎丸山顯徳

* * *

順治『満文詩経』と乾隆『繙訳詩経』の経学説に関する覚え書き◎渡辺純成

満洲語副詞 in i c i s u i は「おのずから」とは限らない◎渡辺純成

『満漢合璧西廂記』の総合的研究・その8◎寺村政男・荒木典子・鋤田智彦

『満漢西廂記』における漢字音表記◎鋤田智彦

中央民族大学蔵『精訳六才子詞』について◎荒木典子

『萬葉集』にみられるオノマトペ——A B型を中心に——その巻◎王 則堯

「環境」の発見——「種の起源」の翻訳からのアプローチ◎大場真・吉田比呂子

「環境」という語の受容史

——文理融合型の学術用語研究のための基礎資料として◎吉田比呂子

執筆者一覧

彙報・編集後記

書名	部数
水門 言葉と歴史 No.29	本体3,500円(+税)
水門の会「編」	A5判並製カバー装・360頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22443-3 C1320
ご送付先ご住所（通信欄）	

ほんちょうもんずいししょう

本朝文粹抄 六

後藤昭雄 [著]

日本漢文の粹を集め、

平安期の時代思潮や美意識を知る上でも貴重な文献「本朝文粹」。

その漢文の世界の深遠へと誘う格好の入門書。

第六巻では特殊な漢詩形式である雑詩のうち紀長谷雄および源順による二種、および、大学寮における試験の問題と解答である策問・対策、講書竟宴等の平安期の学問世界にかかわる作品など、全十一篇を収載。

【目次】

- 第一章 貧女吟(紀 長谷雄)——不幸な女の物語
- 第二章 夏日閑居、庭前の三物を詠ず(源 順)——越調詩
- 第三章 《策問》循良を詳らかにす(菅原輔正)——学問の文章(一)
- 第四章 《対策》循良を詳らかにす(大江挙周)——学問の文章(二)
- 第五章 第八皇子の始めて御注孝経を読むを聴く詩の序(菅原文時)——学問の文章(三)
- 第六章 後漢書竟宴の詩の序(紀 長谷雄)——学問の文章(四)
- 第七章 文選竟宴の詩の序(菅原文時)——学問の文章(五)
- 第八章 冷泉院の池亭に「花光水上に浮かぶ」を賦す詩の序(菅原文時)——学問の近くにある文章
- 第九章 仏性院に秋を惜しむ詩の序(源 順)——仏性院の詩宴
- 第十章 天台山円明房に月前に閑談すといふ詩の序(大江以言)——比叡山の詩会
- 第十一章 亀山の神を祭る文(源 兼明)——山の神に祈る

作者略伝／本朝文粹作品表／あとがき／索引

後藤昭雄 (ごとう・あきお)

一九四三年熊本市生まれ。一九七〇年、九州大学大学院修了。成城大学教授(二〇一三年まで)。主要著書に、『平安朝漢文学論考』(桜楓社、一九八一年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』(共著、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学史論考』(吉川弘文館、一九九三年)、『平安朝文人志』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本詩紀拾遺』(吉川弘文館、二〇〇〇年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇一二年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇一二年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇一七年)など。

書名	部数
本朝文粹抄 六 後藤昭雄 [著]	本体3,200円(+税) 四六判上製カバー装・312頁 2019年12月刊行 ISBN978-4-585-29224-1 C0095
本朝文粹抄 第一期 (一～五巻) セット本体 14,000円	セット
第一巻… 本朝文粹抄 978-4-585-05367-5 C0095 2006年12月 本体 2,800円	部
第二巻… 本朝文粹抄 二 978-4-585-05407-8 C0095 2009年2月 本体 2,800円	部
第三巻… 本朝文粹抄 三 978-4-585-29221-0 C0095 2014年7月 本体 2,800円	部
第四巻… 本朝文粹抄 四 978-4-585-29222-7 C0095 2015年10月 本体 2,800円	部
第五巻… 本朝文粹抄 五 978-4-585-29223-4 C0095 2018年8月 本体 2,800円	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本朝文粹抄

第一期
全五巻

日本漢文の粹を集め、
平安期の時代思潮や美意識を知る上でも
貴重な史料「本朝文粹」。
漢文世界の深遠へと誘う格好の入門書。

第一巻…978-4-585-05367-5 C0095 | 2006年12月刊行
第二巻…978-4-585-05407-8 C0095 | 2009年2月刊行
第三巻…978-4-585-29221-0 C0095 | 2014年7月刊行
第四巻…978-4-585-29222-7 C0095 | 2015年10月刊行
第五巻…978-4-585-29223-4 C0095 | 2018年8月刊行

本体各巻 2,800円(＋税)

本朝文粹抄 五

後藤昭雄 [著]

●大宰府の新羅に答ふる返牒(菅原淳茂)…新羅との交渉●清慎公の為の呉越王に報ゆる書(大江朝綱)付、右丞相の為の呉越公に贈る書状…呉越との交渉●一条院の四十九日の願文(大江匡衡)…天皇を悼む●中務卿親王の家室の為の四十九日の願文(大江朝綱)…妻を悼む●亡息澄明の為の四十九日の願文(大江朝綱)…子を悼む●空也上人の為の般若経を書写供養する願文(三善道統)…経典を書写する●右大臣に奉る書(小野篁)…結婚の申し入れ書●早春宴に待りて鶯花を翫ぶ詩の序(小野篁)…内宴の序●慈恩院初会の序(小野篁)…別宅を寺となす●秋を惜しみて残菊を翫ぶ詩の序(紀長谷雄)…残菊を賞てる

作者略伝 / 本朝文粹作品表 / あとがき / 索引

注文数

部

本朝文粹抄

後藤昭雄 [著]

注文数

部

はじめに / 本朝文粹概説

●清慎公の先帝の奉るに諷誦を修する文(菅原文時)…藤原実朝、村上天皇の追善に楽器を喜捨する●右近中将宣方の為の四十九日の願文(大江匡衡)…源宣方の妻、夫の冥福を祈る●遊女を見る詩の序(大江以言)…淀川の遊女を描く●宇多院の河原院左大臣の為に没後諷誦を修する文(紀在昌)…宇多法皇、源融の霊を供養する(河原院の文学1)●河原院の賦(源順)…河原院哀歌(河原院の文学2)●章河原院に山晴れて秋望多しを賦す詩の序(藤原惟成)…河原院に遊ぶ(河原院の文学3)●学生藤原有章の讃(菅原文時)…大学寮学生の前途を祝福する●老閑行(菅原文時)…不遇を歎く異色の雑言詩●弁官・左右衛門権佐・大学頭等を申す奏状(大江匡衡)…昇進を訴える「博士の申文」●出雲権守藤原朝臣の為の帰京を請ふ奏状(高階成忠)…左遷された藤原隆家、赦免を哀願する●右大臣を辞する表(菅原道真)…菅原道真、右大臣就任を辞退する
作者略伝 / 本朝文粹 / 本朝文粹作品表 / 索引

本朝文粹抄 二

後藤昭雄 [著]

注文数

部

はじめに

●「冬日愛すべし」を賦す詩の序(橘広相)●南巫相山荘尚歯会詩の序(菅原是善)●庚申を守りて「脩竹冬に青し」を賦す詩の序(藤原篤茂)●勸学会所の日州刺史館下に送る牒(慶滋保胤)●飛州刺史の任に赴くに饞けする詩の序(大江以言)●春日の野遊の和歌の序(橘在列)●《意見封事》売官を停めんと請ふ事(菅原文時)●秋夜懐ひを書す(藤原兼海)●天台座主覚慶の宋国杭州奉先寺の和尚に答ふる牒(大江匡衡)●四条大納言の為の中納言左衛門督を罷めんと請ふ状(大江匡衡)●員外藤原言の為の美福門の額を修飾せんと請ひて弘法大師に告す文(大江以言)●勸学院弘名の廻文(慶滋保胤)●二品長公主の為の四十九日の願文(慶滋保胤)●在原氏の亡息員外納言の為に四十九日に諷誦を修する文(大江朝綱)

作者略伝 / 本朝文粹作品表 / 索引

本朝文粹抄 三

後藤昭雄 [著]

注文数

部

●村上天皇の四十の御算を賀し奉る和歌の序(藤原後生)…天皇を祝う和歌序●一条院中宮御産百日の和歌の序(藤原伊周)…親王を祝う和歌序●後一条院の女一宮の御着袴の翌日の宴の和歌の序(藤原齐行)…内親王を祝う和歌序●左丞相花亭遊宴の和歌の序(菅原文時)…左大臣邸の和歌序●法華経二十八品を讚する和歌の序(藤原有国)…仏事の場の和歌序●第七親王の読書閣に「弓勢は月の初三」を賦す詩の序(源順)…源順の詩文(一)親王邸の詩序●西宮の池亭に「花開きて已に樹を匝る」を賦す詩の序(源順)…源順の詩文(二)源氏邸の詩序●淳和院に「波は水中の山を動かす」を賦す詩の序(源順)…源順の詩文(三)学生時の詩序●在納言の奨学院を建立する状(高岳五常)…大学寮別曹の設立●侍中兼将を撰和歌所別当と為す御筆宣旨の奉行文(源順)…源順の詩文(四)『後撰集』の撰者として●撰和歌所の◎入を禁制する文(源順)…源順の詩文(五)『後撰集』の撰者として●藤原明子の帯ぶる爵を停めて男佐時に一階を加へんと請ふ状(源順)…源順の詩文(六)子に位を譲る●尾無き牛の歌(源順)…源順の詩文(七)尻尾を失った牛

作者略伝 / 本朝文粹作品表 / 索引

*「◎」は「門+糸+言+糸」

本朝文粹抄 四

後藤昭雄 [著]

注文数

部

●私稲を以て観音寺の灯分料に充てんと請ふ状(源兼明)…施無畏寺をめぐる詩文(一)●施無畏寺の鐘の銘(源兼明)…施無畏寺をめぐる詩文(二)●自筆の法華経を供養する願文(源兼明)…施無畏寺をめぐる詩文(三)●施無畏寺眺望の詩の序(大江以言)…施無畏寺をめぐる詩文(四)●山亭の起請(源兼明)…亀山をめぐる詩文●応に平将門を討つべき符…政治の文章●渤海国中台省に贈る牒(紀長谷雄)…外交の文章(一)●宇多法皇の渤海使に賜ふ書(紀長谷雄)…外交の文章(二)●鴻臚館に渤海使を饞する詩の序(大江朝綱)…外交の文章(三)●亭子院に飲を賜ふ記(紀長谷雄)…酒の文学●臨時仁王会呪願文(大江朝綱)…仏事の場の文章(一)●朱雀院の賊を平らげて後法会を修せらるる願文(大江朝綱)…仏事の場の文章(二)

作者略伝 / 本朝文粹作品表 / あとがき / 索引

FAX ● 03-5215-9025

勉誠出版 <http://bensei.jp/>

※注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは
勉誠出版宛にお申し出ください。

千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021

ご送付先ご住所(通信欄)

仙洞句題五十首・

水無瀬殿恋十五首歌合

全注釈

石川 一 [編]

正治・建仁期の新古今前夜における後鳥羽院歌壇の特色を示す重要作品2種、初の全注釈。
本歌・語釈・歌意通釈・他集への入集状況を示し、それぞれの解題、初句索引を付した決定版。

「目次」

緒言 石川 一

I 仙洞句題五十首

凡例
全注釈
解題 石川 一

II 水無瀬殿恋十五首歌合

凡例
全注釈
解題 田野慎二

初句索引
あとがき 石川 一
執筆者紹介

本体 一〇,〇〇〇円(+税)

A5判上製函入・三八四頁

二〇二〇年二月刊行

ISBN978-4-585-29195-4 C3092

仙洞句題五十首

せんとうくだいごじつしゆ
建仁元年(一一二〇)の後鳥羽院仙洞御所における和歌所再興まもなく、院により企画された歌合の一つ。後鳥羽院、良経、慈円、定家らが詠じ、上記四名に俊成、寂蓮を加え点者とした。『新古今和歌集』には十二首が選出され、新古今時代の歌風や歌壇状況を知る上での重要な資料である。

水無瀬殿恋十五首歌合

みなせどのこいじゆうごしゆうたあわせ
建仁二年(一一二〇)、後鳥羽院が水無瀬離宮にて催した歌合。作者は、後鳥羽院、良経、慈円、定家、家隆ら全十名。全百五十首中十五首が『新古今和歌集』に入集、うち六首が恋四の巻末三首と恋五の巻頭三首に配列されるなど、新古今的な秀歌を多く生み出した、極めてレベルの高い歌合の一つである。

「編者プロフィール」

石川 一 (いしかわ はじめ)

県立広島大学人間文化学部名誉教授。専門は中世和歌。著書に『七卷本拾玉集(架蔵本) 翻刻』(共著、汲古書院、一九九三年)、『慈円和歌論考』(笠間書院、一九九八年)、『拾玉集本文整理定稿』(勉誠社、一九九九年)、『旧多度津藩家老』林家所蔵文化財図録(単編著、ぺりかん社、二〇〇三年)、『拾玉集(上・下)』和歌文学大系(共著、明治書院、二〇二二年)、『後京極殿御自歌合・慈鎮和尚自歌合全注釈』(共著、勉誠出版、二〇二二年)、『慈円法楽和歌論考』(勉誠出版、二〇一五年)などがある。

書名	仙洞句題五十首・ 水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	部数	
著者	石川 一 [編]	部	
価格	本体 10,000円(+税)		
ページ数	A5判上製函入・384頁		
発行年	2020年2月刊行		
ISBN	ISBN978-4-585-29195-4 C3092		
送料	ご送付先ご住所(通信欄)		

伊藤慎吾

著

南方熊楠と 日本文学

人文学黎明期に、熊楠は日本文学に
どのような価値を見出し、
学問に利用していったのか？

近代における諸学問の形成の時期に在野にありながら
数多くの論考を展開した南方熊楠。
その論考の多くには、文学作品が資料として使われており、
そこには今日でも通用する見解が散見される。
熊楠が研究の基礎とした近世随筆・説話集、
お伽草子や近世怪談などの資料群を精査し、
近代前期における人文学の展開の中に位置付け、
看過されてきたアイディア、研究のオリジナリティを発掘する
ことにより、これからの日本文学研究の可能性を提示する。
熊楠自筆『熊野の本地』・『横山重書簡』・『横山重寄贈本書入れ』・
南方熊楠顕彰館所蔵『絵巻物断簡』などの
貴重資料の翻刻も多数収録。

【著者プロフィール】

伊藤慎吾 (いとう・しんご)

国際日本文化研究センター客員准教授。学術博士(埼玉大学)。専門は、日本文学。
単著に『中世物語資料と近世社会』(三弥井書店、二〇一七年)、『擬人化と異類合戦の文芸史』(同、
二〇一七年)、『室町戦国期の公家社会と文事』(同、二〇一二年)など、共著に『怪人熊楠 妖怪を語る』(同、二〇一九年)、『熊楠と猫』(共和国、二〇一八年)などがある。

【目次】

序論	南方熊楠と日本文学
第一部	古代・中世文学の受容
第一章	南方熊楠の文学史的認識
第二章	横山重と南方熊楠
第三章	お伽草子資料をめぐる―― 南方熊楠書写『熊野の本地』の性格
第四章	南方熊楠『蛤の草紙』論の構想
補論	折口信夫の沓岐調査と文学史
第二部	近世文学の受容
第一章	南方熊楠の妖怪研究と近世説話資料
第二章	南方熊楠と近世期翻案系怪談
第三章	南方熊楠と『甲子夜話』
第四章	妖怪研究と説話・民俗―― 西牟婁郡江住村のネコマタに及ぶ――
第五章	南方熊楠の妖怪名彙(鬼)について
付論	文芸創作について

第三部 資料編

- 1 高須本『熊野縁起』
- 2 横山重書簡・翻字資料
- 3 横山重寄贈本書入れ
- 4 南方熊楠顕彰館所蔵『絵巻物断簡』影印と翻刻



本体 **7,000**円(+税)
A5判上製カバー装・408頁
ISBN 978-4-585-22270-5 C3095
2020年3月刊行

書名	部数
南方熊楠と日本文学	本体 7,000円(+税)
伊藤慎吾 [著]	A5判上製カバー装・408頁 ISBN 978-4-585-22270-5 C3095 2020年3月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

幕末明治の 社会変容と詩歌

したたかな「うたの力」

〔目次〕

序章

第一部 幕末明治の政治と和歌

孝明天皇と古今伝受——附・幕末古今伝受関係年表

近世後期の和学における和歌と教化

幕末の仙台における藩政と和歌

——保田光則編『訓誡歌集』をめぐって

国体と和歌——水戸藩による『明倫歌集』の編纂について

教導職の万葉選歌——国民教化と和歌

第二部 〈草莽〉と和歌

連鎖する志——安政の大獄における水戸〈義民〉の詠歌

尊王攘夷歌の史的位位置——『新葉集』受容と幕末の類題集

志士の歌を読む

幕末の志士はなぜ和歌を詠んだのか——漢詩文化の中の和歌

振気から教化へ——勤王志士詩歌集のゆくえ

第三部 新体詩と「歌」

『新体詩抄』における「歌」

『新体詩歌』の出版を支えた人々

近世韻文としての新体詩

——『新体詩抄』と『新体詩歌』をめぐって

七五調の幕末明治

——今様評価の変遷と加藤松老編『古今今様集』

与謝野晶子の星の歌——『みだれ髪』と土井晩翠

終章

あとがき／初出一覧／索引

青山英正 [著]

（あおやま・ひでまさ）明星大学准教授。専門は19世紀の日本文学（特に詩歌）および文化。著書に『幕末明治 移行期の思想と文化』共編著、勉誠出版、二〇一六年、論文に「古典知としての近世観相学——この不思議なる身体の解剖学」前田雅之編『もう一つの古典知「アジア遊学155、勉誠出版、二〇一二年）、「与謝野晶子の星の歌——『みだれ髪』と土井晩翠」鈴木健一編『天空の文学史 太陽・月・星』三弥井書店、二〇一四年）などがある。

本体 10,000円(+税)

A5 判上製カバー装・496頁
ISBN 978-4-585-29196-1 C3095
2020年2月刊行

書名	幕末明治の社会変容と詩歌	部数	部
著者	青山英正 [著]	本体 10,000円(+税)	
		A5判上製カバー装・496頁	
		2020年2月刊行	
		ISBN978-4-585-29196-1 C3095	
ご送付先ご住所（通信欄）			

鈴木健一 [編]

鈴木健一(すずきけんいち) 一九六〇年生まれ。学習院大学文学部教授。専門は江戸時代の文学。著書に『古典注釈入門 歴史と技法』(岩波書店、二〇一四年)、『天皇と和歌 国見と儀礼の二五〇〇年』(講談社、二〇一七年)、『不忍池ものがたり 江戸から東京へ』(岩波書店、二〇一八年)など、編著に『浸透する教養 江戸の出版文化という回路』(勉誠出版、二〇一三年)、『形成される教養 十七世紀日本の〈知〉』(勉誠出版、二〇一五年)がある。

明治の教養

変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉

●まぐさ

社会の基盤をなす「知」は、
いかに変容していったか。

幕末から明治初期、欧米列強のインパクトは、
それまでの日本の文化体系に
大きな影響を与えることとなった。
古代以来続いてきた和(日本)・漢(中国)を
ベースとした教養のあり方もまた、
時代の趨勢にあわせ変容していく…
和・漢・洋が並び立ち、
混じり合いながら形成された、
近代以降、現代まで続く教養体系の淵源を探る。

好評既刊

浸透する教養

— 江戸の出版文化という回路

本体七、〇〇〇円(+税)
二〇一三年十一月刊行

形成される教養

— 十七世紀日本の〈知〉

本体七、〇〇〇円(+税)
二〇一五年十一月刊行

はじめに…鈴木健一

序論 変容する教養 — 近代における〈和〉〈漢〉〈洋〉…鈴木健一

I…〈和〉が形成する基盤

尊王攘夷論と大和魂 — 本居宣長から吉田松陰へ…田中康二

実録から講談・歴史的読み物へ — 「中山大納言物」を例に…菊池庸介

紀行「易心後語」に見る幸田露伴の教養の根柢

— 古人に向きあうということ…出口智之

手習塾から小学校へ…橋本昭彦

II…〈漢〉はどこへ行くのか?

書における近代的教養 — 清朝書学との交差をめぐって…銅島稲子

「文粹もの」における朱子学と陽明学の折衷…山本嘉孝

ポツケと修養 — 明治期『菜根譚』出版の後景…磯部敦

徳富蘇峰の思想と文体 — 『国民之友』創刊前後…木村洋

III…〈洋〉がもたらすもの

日本語と西洋との邂逅…山東功

新たな「智」の形成 — 福澤諭吉と慶應義塾…西澤直子

岩倉使節団における文化比較と翻訳

— モンテスキュー著・何礼之訳『万法精理』…多田蔵人

討論の条件 — 論争誌としての『明六雑誌』…菅原光

内国勸業博覧会と和・漢・洋 — 本草学と博覧会…國雄行

円朝と「西洋」 — 翻案作概観と「英国孝子伝」黄蔷薇「蝦夷土産」の

方法について…今岡謙太郎

後記…鈴木健一

本体七五〇〇円(+税)・二〇二〇年一月刊行

A5判上製カバー装・三六八頁

ISBN978-4-585-29193-0 C3091

書名	部数
明治の教養 変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	部
鈴木健一 [編]	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

本体7,500円(+税)

A5判上製カバー装・368頁
2020年1月刊行

ISBN978-4-585-29193-0 C3091

浸透する教養

江戸の出版文化という回路

鈴木健一〔編〕

近世日本における「知」の形成と伝播を探る

ヒト・モノ・情報の交通網が整備され、

「知」をめぐる新たな局面が形成されつつあった近世日本。

出版文化の隆盛とともに、それまで権威とされてきた「教養」が、さまざまな回路を通して庶民層へと「浸透」していった。

和歌・漢詩文を中心として、歴史・思想・宗教・科学といった

諸分野にまたがる基礎的知識が磁場としてきわめて強力に働き、日本の文化と文学の根幹が形作られたのである。

「知」の形成と伝播は如何になされたのか。

「画像化」「リストアップ」「解説」という三つの軸より、近世文学と文化の価値を捉え直す。

【目次】

序論

- I 教養を画像化する
- II 教養をリストアップする
- III 教養を解説する

【執筆者】

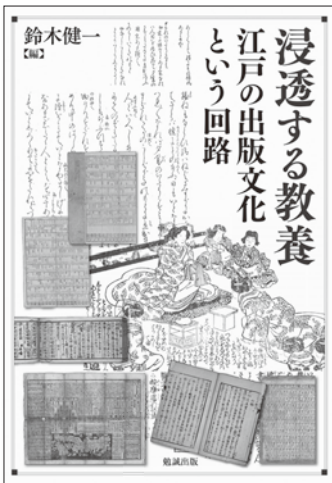
- | | |
|------|------|
| 鈴木健一 | 金田房子 |
| 田代一葉 | 吉丸雄哉 |
| 深沢了子 | 湯浅佳子 |
| 藤澤茜 | 鈴木俊幸 |
| 木越俊介 | 久岡明穂 |
| 勝又基 | 西田正宏 |
| 壬生里巳 | 田中仁 |
| 宮本圭造 | 斎藤文俊 |
| 高山大毅 | 堀口育男 |
| | 津田眞弓 |

本体七、〇〇〇円（＋税）

A5判・上製 四六四頁

二〇一三年十一月刊行

ISBN978-4-585-29061-2 C3091



形成される教養

十七世紀日本の〈知〉

鈴木健一〔編〕

〈知〉を紐帯とする世界の形成を探る

近世初期。それまでの戦乱による混沌を経て、列島内部に安定がもたらされた。

政治的・社会的制度が改めて確立していく動きと呼応するように、

かつての人びとが獲得していた古典的な〈知〉を

再び取り戻さんとする動きが現れる。

さらに、海外からの最新情報と技術移入が起爆剤となって、

教養の強化・定着・伝播へとつながっていく。

〈知〉が社会の紐帯となり、教養が形成されていくその歴史的展開を、室町期からの連続性、学問の復権、メディアの展開、

文芸性の胎動という多角的視点から捉える画期的論集。

【目次】

はじめに

総論

- I 基盤としての室町文化
- II 学問の復権
- III メディアの展開
- IV 文芸性の胎動

【執筆者】

- | | |
|------|-------|
| 鈴木健一 | 海野圭介 |
| 深沢眞二 | 高木浩明 |
| 堀川貴司 | 町泉寿郎 |
| 山本啓介 | 松永知海 |
| 宮本圭造 | 門脇むつみ |
| 澤井啓一 | 柳沢昌紀 |
| 川平敏文 | 田代一葉 |
| 西田正宏 | 田中仁 |
| 田中潤 | 阪口弘之 |
| | 小林千草 |

本体七、〇〇〇円（＋税）

A5判・上製 四六四頁

二〇一五年十一月刊行

ISBN978-4-585-29110-7 C3091



漱石文体見本帳

北川扶生子 [著]

人間の内面心理を巧みに描いた作家、夏目漱石。漱石と同じ時代を生きた読者たちは、多彩な表現をあやつる「文章家」として彼を愛していた。

日本語の混乱期を漱石はどう泳いだのか？

漱石の小説文体を10に分類。具体的な文例を味わいながら、その効果と背景をわかりやすく紹介。

明治の日本語はこんなに豊かだった！

【目次】

序章 漱石文体論概説

ねじふせる、誇張する、こだわる……………漢文調

ただよう……………美文調

ボケる……………滑稽文・写生文調

訳す……………翻訳文調

歩く……………描写

さらす……………視点

とどめをさす……………隠喩

ほどく……………迂言法

終章

【作品例】

虞美人草、それから、吾輩は猫である、文学論、文学評論、こころ、門、道草、他多数

【特色】

●連載当時のイラストカットを多用した見やすいデザイン。

●参考図版多数掲載。

●漱石の文体の魅力に加え、当時の時代背景を理解できる。

●初心者向けの文学鑑賞に最適。



【例文(漢文調)】(『虞美人草』より)

悲劇はついに来た。来きたるべき悲劇はとうから預想していた。預想した悲劇を、なすがままの発展に任せて、隻手をだに下さぬは、業深き人の所為に對して、隻手の無能なるを知るが故である。悲劇の偉大なるを知るが故である。悲劇の偉大なる勢力を味わわしめて、三世に跨がる業を根柢から洗わんがためである。不親切なためではない。隻手を挙げれば隻手を失い、一目を揺かせば一目を眇す。手と目を害のうて、しかも第二者の業は依然として変らぬ……………

【著者プロフィール】

北川扶生子(きたがわ ふきこ)

天理大学教授。専門は日本近代文学。主な論文に「鉄柵のなかの／＼むこうの(自然表現)——日系アメリカ人強制収容所における自然出版、二〇七年」、「私をつくる教室 自然メディア・書くこと」(『交感』自然・環境に呼応する心)ミネルヴァ書房、二〇七年)などがある。

本体 一、八〇〇円(+税)

四六判並製カバー装・二八〇頁
二〇二〇年一月刊行
ISBN978-4-585-29189-3 C0095

<p>書名</p> <h2>漱石文体見本帳</h2> <p>北川扶生子 [著]</p> <p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	<p>部数</p> <p>本体 2,800円(+税)</p> <p>四六判並製カバー装・280頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-29189-3 C0095</p> <p>部</p>
--	---

収録写真
100枚超!

日本近代文学館 [編]



ビジュアル資料でたどる

文豪たちの

東京

文豪たちが愛した東京!

夏目漱石、森鷗外、樋口一葉、芥川龍之介、太宰治、泉鏡花…。
漫画『文豪ストレイドッグス』にも登場する、日本を代表する文豪たちが生活した場、創作の源泉としての東京を浮かびあがらせる。東京を舞台とした作品の紹介のほか、古写真やイラスト、新聞・雑誌の記事や地図など当時の貴重な資料と、原稿や挿絵、文豪たちの愛用品まで一〇〇枚を超える写真も掲載。現在につながる、文豪たちの生きた東京を探る。都内にある八箇所文学館ガイドも掲載! アクセス方法、代表的な収蔵品など、写真付きで紹介。



都内8箇所
文学館ガイド
掲載!

【編者紹介】
公益財団法人日本近代文学館 (にほんきんだいぶんがくかん)
日本初の近代文学の総合資料館。専門図書館として資料の収集・保存に努めるとともに、展覧会・講演会等を開催し資料の公開と文芸・文化の普及のために活動する。二〇一九年現在の所蔵資料は図書・雑誌・肉筆資料など二一九万点。

【収録館】一葉記念館 / 武者小路実篤記念館 / 田端文士村記念館 / 世田谷文学館 / 太宰治文学サロン / 森鷗外記念館 / 漱石山房記念館 / 日本近代文学館

【目次】
刊行にあたって…坂上弘
はじめに—東京文学を歩く…池内輝雄
生活を支えた本郷菊坂の質店
—樋口一葉と伊勢屋…山崎一穎
千駄木・団子坂・確執と親和の青春
—森鷗外と高村光太郎・木下幸太郎…小林幸夫
漱石作品における「東京」の位置
—「山の手」と「下町」の視点から…中島国彦
女性たちの東京—泉鏡花と永井荷風…持田叙子
近代医学へのまなざし—斎藤茂吉と青山脳病院…小泉博明
作家たちの避暑地—芥川龍之介の軽井沢体験など…池内輝雄
伏字の話から始まって—弾・万太郎・瀧太郎…武藤康史
林美美子の東京
—雌伏期の雑司ヶ谷、道玄坂、白山上南天堂喫茶部…江種満子
遊び、働き、住むところ
—川端康成・佐多稲子たち、それぞれの浅草…宮内淳子



本体一、八〇〇円(+税)
A5判並製カバー装・三三〇頁
二〇二〇年四月刊行
ISBN978-4-585-29163-3 C0095

書名	部数
ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京 日本近代文学館 [編]	部
本体2,800円(+税) A5判並製カバー装・320頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-29163-3 C0095	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

同性愛文学の系譜

日本近現代文学におけるLGBT以前／以後

伊藤氏貴[著]

近代以降、同性愛は文学の中で

どのように表現されてきたのだろうか？

BL、百合という文脈で語られると共に、一方でLGBTQを考える為の文学としても注目されている「同性愛文学」。同性愛文学は、いつ誕生し、どのような変化を遂げてきたのであろうか？これまで同性愛文学の文脈からは取り上げられてこなかった作家も含め、明治から平成までの文学史の一側面に光を当てた1冊。

本体 **2,800円** (+税)

四六判上製カバー装・272頁
2020年2月刊行
ISBN 978-4-585-29191-6 C0095

目次

- はじめに 同性愛をめぐる二つの「自由」
- 序章 問題と方法——日本の同性愛文学と「LGBT」
- 第一章 「同性愛者」以前
- 第二章 「同性愛者」の誕生——三島由紀夫という分水嶺とその後
- 第三章 女性同性愛の文学
- 第四章 間奏 稲垣足穂と森茉莉——二つの抽象
- 第五章 同性愛文学の現在、
あるいは「同性愛者」後の同性愛文学の可能性について
- 終章 新たな「自由」へ
- おわりに
- 引用文献一覧／年表

本書の特色

- ★男性・女性同士の恋愛文学に着目。
- ★近現代の著名な文学作家を幅広く紹介。

【収録作家(一部)】

森鷗外、芥川龍之介、
三島由紀夫、田村俊子、
吉屋信子、松浦理英子、
吉田修一、山崎ナオコーラ、
村田沙耶香、綿矢りさ

…など、50人以上の作品に言及。

著者プロフィール

伊藤氏貴(いとう・うじたか)

文芸評論家。明治大学文学部准教授。博士(藝術学)。麻布中学校・高等学校卒業後、早稲田大学第一文学部を経て日本大学大学院藝術学研究科修了。2002年に「他者の在処」で群像新人文学賞(評論部門)受賞。

書名	部数
同性愛文学の系譜 日本近現代文学におけるLGBT以前／以後 伊藤氏貴 [著]	本体 2,800円(+税) 四六判上製・272頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-29191-6 C0095
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

平川祐弘 決定版 著作集

ダンテ『神曲』講義

世界最高の詩人とされるダンテの代表作『神曲』。
日本人が置かれた文化史的立場を吟味し、
漱石のいわゆる「自己本位」で学問を再定義する。
平明で詩的な『神曲』講義により、豊かな西洋中世を解き明かす。

本体 10,000 円(+税)

A5判上製・カバー装・820頁
ISBN978-4-585-29422-1 C0098
2020年2月刊行

学者の中にも「名人芸」の域に達した人がいる。

『神曲』を語らせたなら右に出るものはいない平川は、聴衆や読者を引きつけ楽しませる。

ダンテ文学の広大にして深遠な宇宙を、専門という名の術学主義から解き放ち、風通しのいい地平のもとに連れ出す。

この講義が著者の外国文学研究の総決算だというのが、

「ダンテの旅が同時に著者自身の人生の旅とも重なっている」

(岡田温司)

目次

第一回	ダンテの『新生』	第十四回	鬼どもの行状	中世の四季
第二回	仏教の地獄とキリスト教の地獄	第十五回	異形の者	—フォルゴレ・ダ・サンジミニャーノ
第三回	作品の冒頭	第十六回	オデュッセウスの詩	中世の十二月一暦詩
第四回	地獄の門	第十七回	ダンテの自己中心的正義感	『中世の四季』ふたたび
第五回	三途の川、辺獄	第十八回	地中海世界と寛容の精神	ダンテ『神曲』と非ヨーロッパ世界 杉田英明
第六回	肉欲の罪	第十九回	氷の国、裏切の罪	著者について 小谷年司
第七回	大食らいの罪、貪欲と浪費の罪	第二十回	地獄の底、煉獄到着	ウンブリアに住んで平川作品を読む 堀田政亨
第八回	忿怒の罪、地獄の下層界へ	第二十一回	煉獄前地	著作集に『ダンテ『神曲』講義』を収める際に
第九回	異端の罪、暴力の罪	第二十二回	『神曲』と複式夢幻能	—誤訳の罪などタブーにふれる諸問題について 平川祐弘
第十回	自殺者の森、熱砂の沙漠	第二十三回	七つの環道	Anatomia della dipendenza di Dante
第十一回	男色者たち	第二十四回	地上楽園から天国へ	索引
第十二回	悪の濠、欺瞞の罪	第二十五回	天国篇	
第十三回	聖職売買、汚職収賄			

平川祐弘 (ひらかわ・すけひろ)

執筆者紹介

1931(昭和6)年生まれ。東京大学名誉教授。比較文化史家。第一高等学校一年を経て東京大学教養学部教養学科卒業。仏、独、英、伊に留学し、東京大学教養学部勤務。1992年定年退官。その前後、北米、フランス、中国、台湾などでも教壇に立つ。

ダンテ『神曲』の翻訳で河出文化賞(1967年)、『小泉八雲—西洋脱出の夢』『東の橘 西のオレンジ』でサントリー学芸賞(1981年)、マンゾーニ『いいなづけ』の翻訳で読売文学賞(1991年)、鷗外・漱石・諭吉などの明治日本の研究で明治村賞(1998年)、『ラファディオ・ハーナー植民地化・キリスト教化・文明開化』で和辻哲郎文化賞(2005年)、『アーサー・ウェイラー—『源氏物語』の翻訳者』で日本エッセイスト・クラブ賞(2009年)、『西洋人の神道観—日本人のアイデンティティーを求めて』で蓮如賞(2015年)を受賞。

『ルネサンスの詩』『和魂洋才の系譜』以下の著書は本著作集に収録。他に翻訳として小泉八雲『心』『骨董・怪談』、ボッカッチョ『デカメロン』、マンゾーニ『いいなづけ』、英語で書かれた著書にJapan's Love-hate Relationship With The West (Global Oriental, 後にBrill)、またフランス語で書かれた著書にA la recherche de l'identité japonaise—le shintō interprété par les écrivains européens (L'Harmattan)などがある。

書名	部数
ダンテ『神曲』講義	本体 10,000 円(+税)
平川祐弘 [著] 平川祐弘 決定版 著作集	A5判上製カバー装・820頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-29422-1 C0098
ご送付先ご住所(通信欄)	部

平川祐弘 決定版 著作集

西洋人の神道観

日本人のアイデンティティーを求めて

著者はハーン、クローデルなど外国人の神道理解の経緯を客観的に述べるが、同時に内外の読者に「霊」の存在に満ちた日本を共感的に理解させようと語りかける。日本語版はパリで出版された原著の里帰りであるが、この上なく明晰で、鮮やかで、わかりやすい。

本体 8,000 円(+税)

A5判上製・カバー装・529頁
ISBN978-4-585-29416-0 C0095
2020年3月刊行

目次

西洋人の神道観
日本語版のはじめに
話の前に 教養学士の遍歴、比較研究者の闊歴

第一話 明治初年の民法論争
第二話 祭りの踊り
第三話 死者崇拜と祖先崇拜
第四話 ハーンとクローデルの日本の宗教発見
第五話 富士山
第六話 漢文化と日本人のアイデンティティー
第七話 樹に霊はあるのか
第八話 宗教の混淆
第九話 グロバリゼーションと表裏をなすクレオリゼーション
第十話 神道の行方
第十一話 皇后さまの祈り
付録一 御神木が倒れた日
付録二 ラフカディオ・ハーンと神道
付録三 神道とは何か
付録四 『夢幻能さくら』
註
解説 松居竜五
平川祐弘先生と私たちの長いおつきあい 渡邊真美
ハーンを交えて議論してみたいこと 西成彦
著作集『西洋人の神道観』に寄せて 平川祐弘

平川祐弘は日本理解の大切な手がかりとして「霊の世界」を認めたハーンを論じ、彼を魅了した ghostly Japan を「霊に満ち満ちた日本」という精妙かつふくよかな言葉で表現した。平川は内と外から日本を見つめ、その精神世界の中心を問い続ける。『源氏物語』の物の怪から、日本文学の尽きざる源泉として霊の存在があると説き、夢幻能に登場する死者の霊をダンテが見た『神曲』の夢まぼろしになぞらえる…… (今泉宜子)

本書はパリで出版されたS. Hirakawa, À la recherche de l'identité japonaise— le shintō interprété par les écrivains européens の増補日本語版だが、フランスの明晰とはこのことか。日本人のアイデンティティーとしての固有の宗教文化をこれほどすっきり納得させてくれる書物は稀である。第14回(平成27年)蓮如賞受賞。

平川祐弘 (ひらかわ・すけひろ)

1931(昭和6)年生まれ。東京大学名誉教授。比較文化史家。第一高等学校一年を経て東京大学教養学部教養学科卒業。仏、独、英、伊に留学し、東京大学教養学部に勤務。1992年定年退官。その前後、北米、フランス、中国、台湾などでも教壇に立つ。ダンテ『神曲』の翻訳で河出文化賞(1967年)、『小泉八雲——西洋脱出の夢』『東の橋 西のオレンジ』でサントリー学芸賞(1981年)、マンゾーニ『いいなづけ』の翻訳で読売文学賞(1991年)、鷗外・漱石・諭吉などの明治日本の研究で明治村賞(1998年)、『ラフカディオ・ハーン—植民地化・キリスト教化・文明開化』で和辻哲郎文化賞(2005年)、『アーサー・ウェイリ——『源氏物語』の翻訳者』で日本エッセイスト・クラブ賞(2009年)、『西洋人の神道観——日本人のアイデンティティーを求めて』で蓮如賞(2015年)を受賞。『ルネサンスの詩』『和魂洋才の系譜』以下の著書は本著作集に収録。他に翻訳として小泉八雲『心』『骨董・怪談』、ボッカッチョ『デカメロン』、マンゾーニ『いいなづけ』、英語で書かれた主著にJapan's Love-hate Relationship With The West (Global Oriental, 後にBrill)、またフランス語で書かれた著書にA la recherche de l'identité japonaise—le shintō interprété par les écrivains européens (L'Harmattan)などがある。

執筆者紹介

書名	部数
西洋人の神道観 日本人のアイデンティティーを求めて 平川祐弘 [著] 平川祐弘 決定版 著作集	本体 8,000円(+税) A5判上製カバー装・529頁 2020年3月刊行 ISBN978-4-585-29416-0 C0095
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

平川祐弘 決定版 著作集

東の自生観と西の創造観

「日本の西洋化」を論じた歴史論文、「東の自生観と西の創造観」という比較文化論、東西文化に足をおろした「二本足の人、森鷗外」、「東の橘 西のオレンジ」などの随筆、「西洋の詩 東洋の詩」などを収録。東西両洋に跨る比較史学と比較詩学が織りなす見事な1冊。単行本初の収録作品多数！

本体 14,000円(+税)

A5判上製・カバー装・1106頁
ISBN978-4-585-29428-3 C0095
2020年3月刊行

ケンブリッジの『日本史』でJapan's turn to the Westを論じた平川祐弘は、
どうして中国人学生に中村正直の話をしたのか。

戦暁梅はいう「幕末最高の儒学者の格調高い漢文は中国人に親しみやすい。古代中国から近代西洋へと日本の文明モデルの転換の説明に中村のSelf-Helpの翻訳は格好な素材である。しかしその講義でもっとも衝撃的な内容は日中両国における「自由」の運命だ。平川先生が自らの研究をもって私たち中国学生へ送った挑戦状にさえ感じられる」

目次

- 第一部 日本の西洋化—古代中国から近代西洋へ
—明治日本における文明モデルの転換
- 第二部 東の自生観と西の創造観
- 第三部 二本足の人、森鷗外
- 第四部 東の橘 西のオレンジ
- 第五部 イタリア
- 第六部 西洋の詩 東洋の詩
- 第七部 画家

平川先生との出会いと再会 安達淳

あの頃といま 尾川俊宏

『東の自生観と西の創造観』に寄せて

—林檎の詩人と北方ロマンチズム 平川祐弘

平川祐弘 (ひらかわ・すけひろ)

執筆者紹介

1931(昭和6)年生まれ。東京大学名誉教授。比較文化史家。第一高等学校一年を経て東京大学教養学部教養学科卒業。仏、独、英、伊に留学し、東京大学教養学部に勤務。1992年定年退官。その前後、北米、フランス、中国、台湾などでも教壇に立つ。

ダンテ『神曲』の翻訳で河出文化賞(1967年)、『小泉八雲—西洋脱出の夢』『東の橘 西のオレンジ』でサントリー学芸賞(1981年)、マンゾーニ『いいなづけ』の翻訳で読売文学賞(1991年)、鷗外・漱石・諭吉などの明治日本の研究で明治村賞(1998年)、『ラフカディオ・ハーン—植民地化・キリスト教化・文明開化』で和辻哲郎文化賞(2005年)、『アーサー・ウェイリ—『源氏物語』の翻訳者』で日本エッセイスト・クラブ賞(2009年)、『西洋人の神道観—日本人のアイデンティティーを求めて』で蓮如賞(2015年)を受賞。

『ルネサンスの詩』『和魂洋才の系譜』以下の著書は本著作集に収録。他に翻訳として小泉八雲『心』『骨董・怪談』、ボッカッチョ『デカメロン』、マンゾーニ『いいなづけ』、英語で書かれた主著にJapan's Love-hate Relationship With The West (Global Oriental, 後にBrill)、またフランス語で書かれた著書にA la recherche de l'identité japonaise—le shintō interprété par les écrivains européens (L'Harmattan)などがある。

書名

東の自生観と西の創造観

平川祐弘 [著]

平川祐弘 決定版 著作集

本体 14,000円(+税)

A5判上製カバー装・1106頁

2020年3月刊行

ISBN978-4-585-29428-3 C0095

部数

部

ご送付先ご住所 (通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

平川祐弘 決定版 著作集

開国の作法

本体 14,000円(+税)

A5判上製・カバー装・984頁
ISBN978-4-585-29429-0 C0021
2020年4月刊行

国際間のつきあいは物言わぬ貿易だけでなく、人間の顔のある交際でなければならない。

知識人や学者は外国思想の代理人として翻訳や受け売りをするが、それだけでよいのか。外国の宣伝をすることが国際的連帯か。

どうしたら日本人は相手の悪意ある主張を斥け、外国へ向け意見を述べることができるのか。

国際場裏に活動した比較史家が、失敗をまじえて、その体験を語る。

「教養ある人は外国語一つは読み書き話しができることが望ましい。その外国語と母国語を結ぶと、知識がばらばらの点でなく線となる。それに第二外国語が加わると、知識は面となり、遠近感覚がついてくる。さらに加わると、見方が立体的となり、バランスがとれてくる。日本の第一線に立つ知識人は二つの外国語を学んで三点測量の出来ることが望ましい。すると事実即して意外な新視野が開けてくる。研究対象国の文化や専門を学ぶことは大切だが、自国語の古典の一つに通じることでも大切だ。日本人としての自信はそこから自ずと生れる。日本文化にも一本の足をおろしていると判断がおおらかになり、すなおに外に向けて自分を主張することもできるようになる。」 (平川祐弘)

目次

定年教授の楽しみ

米寿のまえがき

第一部 人

第二部 消えてゆく「人民中国」

第三部 「世界市民」がはまりやすい陥穽

第四部 日本語は生きのびるか

第五部 国際化と日本

第六部 国際化と大学

第七部 外国で考える

第八部 外国で暮らす

第九部 日本をまた考える

第十部 語学教師の夢

第十一部 駒場の学風

第十二部 平川祐弘

人について

作品について

執筆者紹介

平川祐弘 (ひらかわ・すけひろ)

1931(昭和6)年生まれ。東京大学名誉教授。比較文化史家。第一高等学校一年を経て東京大学教養学部教養学科卒業。仏、独、英、伊に留学し、東京大学教養学部に勤務。1992年定年退官。その前後、北米、フランス、中国、台湾などでも教壇に立つ。ダンテ『神曲』の翻訳で河出文化賞(1967年)、『小泉八雲——西洋脱出の夢』『東の橋 西のオレンジ』でサントリー学芸賞(1981年)、マンゾーニ『いいなづけ』の翻訳で読売文学賞(1991年)、鷗外・漱石・諭吉などの明治日本の研究で明治村賞(1998年)、『ラフカディオ・ハーン—植民地化・キリスト教化・文明開化』で辻哲郎文化賞(2005年)、『アーサー・ウェイリ——『源氏物語』の翻訳者』で日本エッセイスト・クラブ賞(2009年)、『西洋人の神道観——日本人のアイデンティティーを求めて』で蓮如賞(2015年)を受賞。『ルネサンスの詩』『和魂洋才の系譜』以下の著書は本著作集に収録。他に翻訳として小泉八雲『心』『骨董・怪談』、ボッカッチョ『デカメロン』、マンゾーニ『いいなづけ』、英語で書かれた主著にJapan's Love-hate Relationship With The West (Global Oriental, 後にBrill)、またフランス語で書かれた著書にA la recherche de l'identité japonaise—le shintō interprété par les écrivains européens (L'Harmattan)などがある。

書名

開国の作法

平川祐弘 [著]

平川祐弘 決定版 著作集

部数

本体 14,000円(+税)

A5判上製カバー装・984頁

2020年4月刊行

ISBN978-4-585-29429-0 C0021

部

ご送付先ご住所 (通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

本書の特色

- ◎ボブ・ディラン初期代表作「激しい雨が降りそうだ(A Hard Rain's A-Gonna Fall)」を徹底解説。
- ◎時代ごとに区切って、アメリカの現代詩人を紹介。
- ◎入門者にもやさしい丁寧な解説。原文と忠実な訳を対照。
- ◎初邦訳の作品を多く含む、アメリカ詩を代表する30編を厳選収録。アメリカ詩の変遷を俯瞰できる。

目次

- はじめに
- 序章 アメリカ現代詩入門
- 第一世代:**
エズラ・パウンド／ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ／ウォレス・ステイヴンズ／T・S・エリオット／E.E.カミングズ／H・D／マリアン・ムーア／ロバート・フロスト
- 第二世代:**
チャールズ・オルソン／アドリエンヌ・リッチ／ロバート・ロウエル／エリザベス・ビショップ
- 第三世代:**
アレン・ギンズバーグ／フランク・オハラ／ゲアリー・スナイダー／ボブ・ディラン

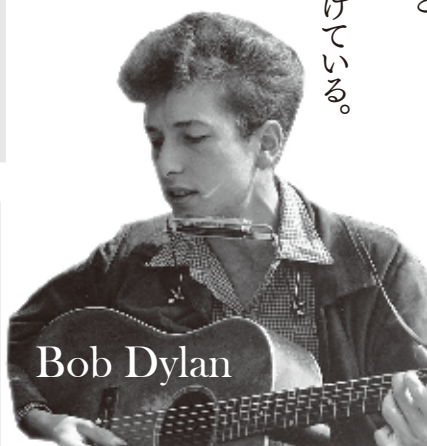
著者プロフィール

はら・しげよし。1953年、東京都生まれ。アメリカ文学者、獨協大学教授。アメリカ現代詩を専門とし、ビート・ジェネレーションの日本への紹介者の一人である。訳書に、『野性の実践』(思潮社、2011)、『終わらなき山河』(思潮社、2002)、『ウィリアムズ詩集』(思潮社、2005)、『チャールズ・オルソン詩集』(思潮社、1992)など多数。また、ボブ・ディランのノーベル賞受賞に関連する活動として、『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち いま読みたい38人の素顔と作品』(青月社、2014)での執筆、読売新聞での執筆、「現代詩手帖」での対談・寄稿、NHKの解説番組「視点・論点」への出演など。

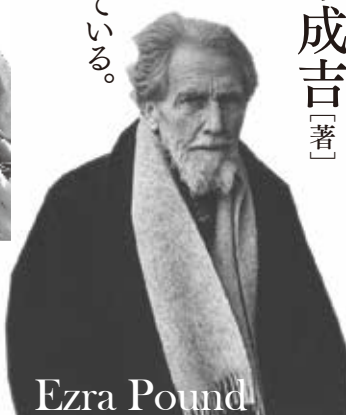
アメリカ現代詩研究の第一人者による、アメリカ詩を知るための最良のアンソロジー＆解説書！

アメリカ詩は、それまでの西洋の詩とはまったく異なる、独自の発展を遂げてきている。固有の韻律の発見、実験的ラインブレイク、口語や俗語の頻用、漢詩や俳句の手法からの借用、事物を列挙するカタログ手法など、次々と生み出されるその型破りなスタイルは、文学の世界のみならず、他の芸術分野にも大きな影響を与え続けている。

モダニズムの礎を築いたエズラ・パウンドから、ビート・ジェネレーションの先導者アレン・ギンズバーグや、フェミニズムを先取りしていたエイドリアン・リッチ、そして現代最高の吟遊詩人ボブ・ディランまで、アメリカ現代詩を代表する一九人の三〇作品を、一篇ずつ、丹念に読み解く。



Bob Dylan



Ezra Pound

アメリカ現代詩入門

エズラ・パウンドからボブ・ディランまで

原成吉〔著〕

An Introduction to American Poetry: Ezra Pound to Bob Dylan

本体3,500円(+税)

四六判並製カバー装・504頁
2020年2月刊行
ISBN978-4-585-29191-6 C0098

書名	部数
アメリカ現代詩入門 エズラ・パウンドからボブ・ディランまで 原成吉〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

本体3,500円(+税)

四六判並製カバー装・504頁
2020年2月刊行
ISBN978-4-585-29191-6 C0098

100人の作家で知る

A Guidebook to Latin American Literature

ラテンアメリカ文学 ガイドブック

寺尾隆吉〔著〕

ラテンアメリカ文学を知るための画期的入門書!!

カブリエル・ガルシア・マルケス(『百年の孤独』)、

マリオ・バルガス・リョサ(『緑の家』)、ホルヘ・ルイス・ボルヘス(『伝奇集』)、

レイナルド・アレナス(『襲撃』)、ロベルト・ボラーニョ(『2666』)……

アメリカやヨーロッパの作家の影響から出発しながらも、土俗性、

幻想性、そして溢れ出るイマジネーションを織り交ぜながら独自の

発展を遂げてきたラテンアメリカ文学は、数多く日本で邦訳されている。

しかし、その一方でこうした作家や作品を

まとめて紹介した媒体はほとんど存在していない。

一九〇二世紀の代表的な作家二〇〇人とその代表作を紹介する。
ラテンアメリカ文学を読む人への指針となるハンドブック!

紹介する作家

レオナルド・パドゥーラ
ロベルト・ボラーニョ
レイナルド・アレナス
マリオ・バルガス・リョサ
カルロス・フエンテス
ガブリエル・ガルシア・マルケス
ホセ・ドノ
ファン・ルルフォ
オクタビオ・パス
フリオ・コルタサル
アレホ・カルペンティエール
ホルヘ・ルイス・ボルヘス
など……総勢100人!!

著者プロフィール

寺尾隆吉(てらお・りゅうきち)
1971年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了(学術博士)。現在、早稲田大学社会科学部教授。専門は現代ラテンアメリカ文学。主な著書に、『ラテンアメリカ文学入門—ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』(中公新書、2016年)。主な訳書に、マリオ・バルガス・リョサ『マイタの物語』(水声社、2018年)、フリオ・コルタサル『奪われた家/天国の扉 動物寓話集』(光文社古典新訳文庫、2018年)などがある。

目次

- まえがき
- 作家紹介
- コラム
 - ・ラテンアメリカにおける文学賞の功罪
 - ・ラテンアメリカ文学と文学エージェント
 - ・「ラテンアメリカ文学のブーム」回顧
 - ・ラテンアメリカの新聞・雑誌と創作活動
 - ・ラテンアメリカ文学の地域差と文学的特色

本体2,800円(+税)

A5判並製カバー装・248頁
2020年3月刊行
ISBN978-4-585-29194-7 C0098



書名	部数
100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック 寺尾隆吉〔著〕	部
本体2,800円(+税) A5判並製カバー装・248頁 2020年3月刊行 ISBN978-4-585-29194-7 C0098	
ご送付先ご住所(通信欄)	

デジタルアーカイブ・ベーシックス 3

自然史・理工系 研究データの活用

井上透 [監修]
中村覚 [責任編集]

デジタルアーカイブを
活用・運用していくための
基礎を学ぶことのできる
必読のシリーズ

デジタルアーカイブはイノベーションの源泉。
多様な分野での自然科学、理工デジタルアーカイブの
活用はどのような知を生み出しているのか？

オープンサイエンスや、研究データといったトピックスを交えながら、
高等教育機関、自然史・理工系博物館、研究機関が開発・運用している
各種データベースやWEBサイトを紹介し、
天文学、生物学、地球惑星科学、環境学など、
自然科学分野における取り組みの事例を一覧。
今後の研究の一助となる情報が満載の一冊。

- 続刊予定
(全5巻・仮題、年2～3冊刊行予定)
- 第1巻 権利処理と法の実務 [既刊]
 - 第2巻 災害記録を未来に活かす [既刊]
 - 第4巻 アートシーンを支える
 - 第5巻 新しい産業創造へ

目次

序論 自然史・理工学デジタルアーカイブの今日的意義 ● 井上透 (岐阜女子大学)

第1部 研究データの活用にもつて

1. 科学データのデジタルアーカイブにおける必須条件「オープンデータ」
● 大澤剛士 (首都大学東京)
2. 研究データ利活用の国際的動向
——世界の自然史・理工学DA活用 ● 南山泰之 (国立情報学研究所)

第2部 自然史・理工学DAの社会的活用

3. オープンサイエンスと天文学 ● 玉澤春史 (京都市立芸術大学 / 京都大学)
4. 自然史博物館 × デジタルアーカイブ——オープンサイエンスを拓く一例
としての魚類写真資料データベース ● 大西巨 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
5. 自然史情報のデジタルアーカイブとその社会的問題への利用
——地球規模生物多様性情報機構GBIFの機能とそのデータの利用
● 細矢剛 (国立科学博物館)

6. 環境学 × 教育——森の感性情報アーカイブ・サイバーフォレストを用いた
環境教育 ● 中村和彦 (東京大学)

第3部 自然史・理工系研究データの学際的利用

7. 南方熊楠データベース——文理統合・双方向型デジタルアーカイブ
● 岩崎仁 (京都工芸繊維大学)
8. 異分野融合で切り拓く歴史的オーロラ研究
——オーロラ4Dプロジェクトの経験から ● 岩橋清美 (国立国文学研究所)
9. 東京大学工学史料キュレーション事業の展開
——工学・情報理工学図書館を実例に ● 市村櫻子 (東京大学)

あとがき ● 中村覚 (東京大学)

本体 2,500 円 (+税)

A5判並製カバー装・240頁
ISBN 978-4-585-20283-7 C1000
2020年4月刊行

【監修者・編者プロフィール】

井上透 (いのうえ・とおる)

岐阜女子大学文化創造学部副学部長・教授、デジタルアーカイブ研究所所長。
専門は情報学、シソーラス、博物館学。

中村覚 (なかむら・さとる)

東京大学情報基盤センター助教。
専門は情報学、人文情報学。

書名	部数
デジタルアーカイブ・ベーシックス 3 自然史・理工系研究データの活用 井上透 [監修] / 中村覚 [責任編集]	本体 2,500 円 (+税) A5判並製カバー装・240頁 ISBN 978-4-585-20283-7 C1000 2020年4月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

この本を書いたのは誰だ？ 統計で探る“文章の指紋”

村上征勝 [著]

文章のクセから、書き手を推定する――

シェイクスピアの作品や『聖書』『源氏物語』など、

書き手が疑わしい文章は、洋の東西を問わず数多く存在する。

このような疑惑のある文章に対して、本書は

「書き手を識別・特定する文章の特徴(クセ)」|| “文章の指紋”を

みつけるために行われてきた様々な方法を紹介する。

また著者が携わった日本語を対象とする事例を解説する。

【目次】

- 第1章 かい人21面相は二人いた――脅迫状を書いたのは誰か「犯罪事件篇」
- 第2章 ノーベル文学賞の盗作疑惑――小説の作者は誰か「文学作品篇」
- 第3章 愛国者の名を騙る者――国王を誹謗したのは誰か「政治・哲学篇」
- 第4章 神の言葉を伝える――聖書を書いたのは誰か「宗教篇」
- 第5章 “文章の指紋”は作り直せるのか

【著者略歴】

村上征勝(むらかみ まさかつ)

一九四五年生まれ。統計数理研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授、元同志社大学文化情報学部長。工学博士。専門は計量文献学、統計学。主な編著書に、『文化情報学事典(監修、勉誠出版、二〇一九年)』、『文化情報学入門(勉誠出版、二〇〇六年)』、『計量文献学の射程(共著、勉誠出版、二〇一六年)』、『シェイクスピアは誰ですか?――計量文献学の世界(文春新書、二〇〇四年)』、『源氏物語 語彙用例総索引 自立語篇/付属語篇(共編、勉誠出版、一九九四年、一九九六年)』、『紫式部日記語彙用例総索引(共編、勉誠出版、一九九七年)』などがある。

本体 **1,800** 円(+税)

B6判・並製カバー装・216頁
ISBN978-4-585-29198-5 C0095
2020年4月刊行

書名	この本を書いたのは誰だ? 統計で探る“文章の指紋” 村上征勝 [著]	部数	部
ご送付先ご住所(通信欄)		本体1,800円(+税) B6判・並製カバー装・216頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-29198-5 C0095	

R・Pythonによる 統計データ科学

本体2,700円(+税)
A5判並製カバー装・272頁
2020年2月刊行
ISBN978-4-585-24011-2 C3041

杉山高一・藤越康祝 [監修] 塚本真一・西山貴弘・首藤信通・村上秀俊・小椋 透
竹田裕一・榎本理恵・櫻井哲朗・土屋高宏・兵藤 昌 [著]
中村好宏・川崎玉恵・伊谷陽祐・杉山高聖

初めて学ぶ人のための、統計学の基本的な考え方がよくわかる教科書

実際のデータ・例題を用いて、考え方の本質がわかるように解説、演習問題も多数掲載。

統計フリーソフト「R」と、現在最もよく使われているプログラミング言語であり、

統計解析の機能も豊富なPythonを用いて、具体的なデータの分析法やグラフの書き方をレクチャー。

近年注目され、実社会でよく利用されているモデル選択法、ブートストラップ法など、

他の教科書にない実用的な内容もやさしく記述する。

RとPythonによるプログラムや、本書のレベルを超えさらに学ぶ読者のために、

一歩進んだ解説や定理の証明などが、無料でダウンロード可能。

本書の特色

- ◎統計学の基本的な考え方がよくわかる。
- ◎豊富な実例・データ・演習問題で本質をつかむ。
- ◎モデル選択、ブートストラップ法など最新手法も、やさしく解説。
- ◎統計フリーソフトRとPythonによるプログラムを多数収録!
- ◎ワンランク上の説明、PowerPointのレジュメ等をWebからダウンロード可能。

目次

1章 確率	8章 モデル選択法
2章 確率変数と確率分布	9章 ノンパラメトリック検定
3章 標本分布	10章 多重比較法
4章 推定	11章 計算機指向型法
5章 検定	12章 2次元データに対する統計解析法
6章 回帰分析	13章 経時データ解析入門
7章 適合度検定	付録 R・Pythonについて

Webからダウンロード可能:

- ・記述統計学について
 - ・R・Pythonによるプログラム集
 - ・PowerPointによる各章のまとめ
- ほか

監修者プロフィール

杉山高一 (すぎやま・たかかず)

中央大学名誉教授、理学博士、元日本統計学会会長。専門は統計学、多変量解析。

主な著書に『統計科学入門』(綏文社)、『多変量データ解析』(共著、朝倉書店)、『統計OR活用事典』(共編著、東京書籍)、『統計データ科学事典』(共編著、朝倉書店)などがある。

藤越康祝 (ふじこし・やすのり)

広島大学名誉教授、理学博士、元日本統計学会会長。専門は統計学、多変量解析。

主な著書に『Multivariate Statistics』(共著、Wiley)、『経時データ解析の数理』(朝倉書店)、『多変量モデルの選択』(共著、朝倉書店)、『統計データ科学事典』(共編著、朝倉書店)などがある。

書名	部数
R・Pythonによる 統計データ科学 杉山高一・藤越康祝 [監修]	本体2,700円(+税) A5判並製カバー装・272頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-24011-2 C3041
ご送付先ご住所 (通信欄)	

六朝文化と日本

謝靈運しゃれい うれんという視座から「アジア遊学240」

蔣義喬 [編著]

儒・道・仏に通じ博学多才の詩人・謝靈運

日本文学・中日比較文学研究として取り上げ、思想的な背景となった六朝期の仏教や道教にも目を向けつつ、日本文学における受容の軌跡を追い、六朝文化受容のあり方を体系的に検討した一冊。



「目次」

序言：蔣義喬

I ● 研究方法・文献

謝靈運をどう読むか——中国中世文学研究に対する一つの批判的考察：林暁光
謝靈運作品の編年と注釈について：呉冠文(訳・黄昱)

II ● 思想・宗教——背景としての六朝文化

「コラム」謝靈運と南朝仏教：船山徹
洞天思想と謝靈運：土屋昌明

III ● 自然・山水・隠逸——古代日本の受容

日本の律令官人たちは自然を発見したか：高松寿夫
古代日本の吏隠と謝靈運：山田尚子

IV ● 場・美意識との関わり

平安朝詩文における謝靈運の受容：後藤昭雄
平安時代の詩宴に果たした謝靈運の役割：佐藤道生

V ● 説話・注釈

慧遠・謝靈運の位置付け——源隆国「安養集」の戦略をめぐって：荒木浩
「コラム」日本における謝靈運「述祖徳詩」の受容についての覚え書き：黄昱
「蒙求」『靈運曲笠』をめぐって
——日本中近世の抄物、注釈を通してみる謝靈運故事の展開とその意義：河野貴美子

VI ● 禅林における展開

日本中世禅林における謝靈運受容：堀川貴司
山居詩の源を辿る——貫休と絶海中津の謝靈運受容を中心に：高兵兵
五山の中の「登池上楼」詩——「春草」か、「芳草」か：岩山泰三

VII ● 近世・近代における展開

俳諧における「謝靈運」：深沢真二・深沢了子
江戸前期文壇の謝靈運受容——林羅山と石川丈山を中心に：陳可冉
「コラム」謝靈運「東陽溪中贈答」と近世・近代日本の漢詩人：合山林太郎

謝靈運とは……

東晋・南朝宋で活躍した詩人・文学者。

山水の詩が有名で「山水詩」の祖とされる。

『文選』に多くの詩作が収録され、

『金剛般若経注』を著すほど仏教にも通じた。

しかし、傲慢な性格が災いし、非業の最期を遂げる。

彼の作品や生涯は日本にも伝わり、

知識人・文人である菅原道真や吉田兼好などに

多大な影響を与えた。

六朝とは……

中国史で建康(建業)に都をおいた

三国・呉、東晋、南朝の宋・齊・梁・陳の総称。

「編著者紹介」

蔣義喬(しょうぎぎょう)

北京師範大学外文学院准教授、早稲田大学日本古典籍研究所招聘研究員。専門は平安朝漢詩。

主な論文に「詠物詩から句題詩へ——句題詩詠法の生成をめぐって(和漢比較文学)三五号、二〇〇五年)、「詠物と言志——『懐風藻』から勅撰三集に至る(『日本における「文」と「ブンガク」(Bungaku)』)」「アジア遊学」一六二、勉誠出版、二〇一三年)、「菅原道真的詠物詩與杜甫詩歌的関連」(『日語学習與研究』二〇一八年第二号)などがある。

本体 2,800 円(+税)

A5判並製カバー装・224頁
ISBN978-4-585-22706-9 C1390
2019年12月刊行

書名	部数
六朝文化と日本 謝靈運という視座から 蔣義喬 [編著]	本体 2,800 円(+税) A5判並製カバー装・224頁 2019年12月刊行 ISBN978-4-585-22706-9 C1390
ご送付先ご住所(通信欄)	

源実朝

虚実を越えて

【アジア遊学241】

渡部泰明 [編]

鎌倉幕府三代将軍、

源実朝が凶刃に倒れてから八〇〇年。

その非業の死は人びとの興味を引き付け、

数々の史書、歌書、伝承のなかにその姿を留めてきた。

そして、現代。これほどの年を経て、

実朝への関心はいまだ失われていない。

わずか二十八歳で死んだ実朝は

その生涯でいったい何をし得たのか。

また、語りのなかで、

人びとは実朝に何を投影してきたのか。

歴史・文学・文化などの諸領域からの新知見を示し、

日本史上における実朝の位置を明らかにする。



本体2,800円(+税)

A5判並製カバー装・216頁

2019年12月刊行

ISBN978-4-585-22707-6 C1321

【目次】

渡部泰明 ● 序言

菊池紳一 ● 鎌倉殿源実朝

坂井孝一 ● 建保年間の源実朝と鎌倉幕府

高橋典幸 ● 文書にみる実朝

山家浩樹 ● 実朝の追善

渡部泰明 ● 実朝像の由来

久保田淳 ● 実朝の自然詠歌首について

前田雅之 ● 実朝の題詠歌——結題(四字題)歌を中心に

中川博夫 ● 実朝を読み直す——藤原定家所伝本『金槐和歌集』抄

小川剛生 ● 柳営垂槐本をめぐる問題——編者・部類・成立年代

源健一郎 ● 中世伝承世界の〈実朝〉——『吾妻鏡』唐船出帆記事試論

小林直樹 ● 『沙石集』の実朝伝説——鎌倉時代にふける源実朝像

中村翼 ● 源実朝の仏牙舍利将来伝説の基礎的考察

日置貴之 ● 影の薄い将軍——伝統演劇にふける実朝

松澤俊二 ● 近代歌人による源実朝の発見と活用

——文化資源という視点から

多田蔵人 ● 小林秀雄『実朝』論

【編者紹介】

渡部泰明(わたなべ・やすあき) 東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は和歌史。主な著書に『中世和歌の生成』(若草書房、一九九九年)、『和歌とは何か』(岩波書店、二〇〇九年)、『中世和歌史論』(模式と方法) (岩波書店、二〇一七年)などがある。

書名	部数
源実朝 虚実を越えて 【アジア遊学No.241】	本体2,800円(+税)
渡部泰明 [編]	A5判並製カバー装・216頁 2019年12月刊行 ISBN978-4-585-22707-6 C1321
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

中国學術の東アジア伝播と 古代日本

〔アジア遊学242〕

榎本淳一・吉永匡史・河内春人 [編]

「東アジア文化圏」の実態解明のために――

學術(学問・芸術・技術)は、文化のみならず、

その時代の社会、支配のあり方を規定する力を持つ。

その動向・内実を知ることが、それぞれの時代・地域の

歴史の本質に迫るための重要な視点である。

なぜ、東アジア地域のみが長らく中国文化を

共有し続けたのか、中国文化を共有することに

どのような歴史的意義があったのか――

中国大陆に淵源をもつ學術が

周辺諸地域に広がり、根付いていった諸相をたどり、

東アジア文化圏の形成・展開の実態を明らかにする。

〔編者紹介〕

榎本淳一(えのもと・じゅんいち)
大正大学文学部教授。

主著に『日唐賤人制度の比較研究』(同成社、二〇一九年)など。

吉永匡史(よしなが・まさふみ)
金沢大学人間社会研究域准教授。

主著に『律令国家の軍事構造』(同成社、二〇一六年)など。

河内春人(こうち・はるひと)
関東学院大学経済学部准教授。

主著に『倭の五王 王位継承と五世紀の東アジア』(中央公論社、二〇一八年)など。

〔目次〕

序言：榎本淳一

I 中国における學術の形成と展開

佚名『漢官』の史料性格

――漢代官制関係史料に関する一考察：楯身智志

前四史からうかがえる正統観念としての儒教と「皇帝支配」

――所謂外戚恩沢と外戚政治についての学術的背景と
その東アジア世界への影響：塚本剛

王儉の學術：洲脇武志

魏収『魏書』の時代認識：梶山智史

『帝王略論』と唐初の政治状況：会田大輔

唐の礼官と礼学：江川武部

劉知幾『史通』における五胡十六国関連史料批評

――魏収『魏書』と崔鴻『十六国春秋』を中心に：河内 桂

II 中国學術の東アジアへの伝播

六世紀新羅における識字の広がり：橋本 繁

古代東アジア世界における貨幣論の伝播：柿沼陽平

九条家旧藏鈔本『後漢書』断簡と原本の日本将来について

――李賢『後漢書注』の禁忌と解禁から見る：小林 岳

古代東アジアにおける兵書の伝播

――日本への舶来を中心として：吉永匡史

陸善経の著作とその日本伝来：榎本淳一

III 日本における中国學術の受容と展開

『日本書紀』は『三國志』を見たか：河内春人

日本古代における女性の漢籍習得：野田有紀子

大学寮・紀伝道の学問とその故実について

――東坊城和長『桂葉記』桂林遺芳抄を巡って：濱田寛

平安期における中国古典籍の摂取と利用

――空海撰『秘藏宝鑑』および藤原敦光撰『秘藏宝鑑鈔』を例に
：河野貴美子

あとがき：吉永匡史・河内春人

本体 2,800 円(+税)
A5判並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-22708-3 C1322
2020年1月刊行

書名	部数
中国學術の東アジア伝播と古代日本 【アジア遊学No.242】 榎本淳一・吉永匡史・河内春人 [編]	部
本体 2,800 円(+税) A5判並製カバー装・240頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22708-3 C1322	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

松原正毅

編

中央アジアの歴史と現在

草原の叡智

アルタイ・天山からモンゴルへ

中央アジアは人類の歴史のなかでも、特に重要な舞台であり続けた。この地の遊牧民はスキタイと匈奴から始まり、突厥とモンゴル、そして満洲人に至るまで、西へ、東へと移動していくなかで、王朝交替を促す内燃機の役わりを果たし続けてきた。近代に入ってからヨーロッパや日本の探検家たちが中央アジアに入り、この地を「シルクロード」と呼んだ。20世紀後半、それまで閉鎖的であったこの地の現地調査が可能となり、本書の執筆者たちにより、長期間にわたり広汎なフィールドワークが行われた。本書はその成果として、道・馬・ミイラ・聖者・殺人者・英雄・シヤーマンなどの様々なトピックを取り上げ、民族学（人類学）・歴史学・考古学などの広い視角から、広大な中央アジアの大地と遊牧民の真の姿を、豊富な写真とともに描く。

【目次】

まえがき アルタイ・天山からモンゴルへ ●松原正毅

総論 シルクロードと一帯一路 ●松原正毅

中央ユーラシア史の私的構想——文献と現地を得たものから ●堀直

中央アジアにおける土着信仰の復権と大国の思惑——考古学の視点から ●林俊雄

聖者の執り成し——何故ティムールは聖者の足許に葬られたのか ●濱田正美

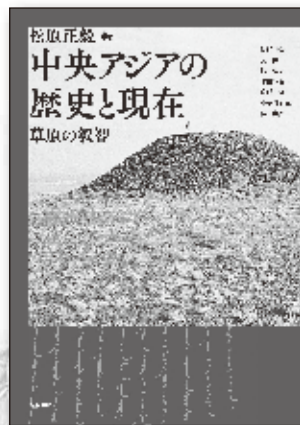
オドセルとナワーンの事件（一八七七年）から見る清代のモンゴル人社会 ●萩原守

ガルダン・ボショクト・ハーンの夢の跡——英雄の歴史に仮託する人びと ●小長谷有紀

描かれた神、呪われた復活 ●楊海英

あとがき ●小長谷有紀

【アジア遊学243】



本体 2,400 円(+税)

A5判並製カバー装・192頁
ISBN978-4-585-22709-0 C1322
2020年3月刊行

【編者紹介】

松原正毅（まつばら まさたけ）

国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授。専門は社会人類学。

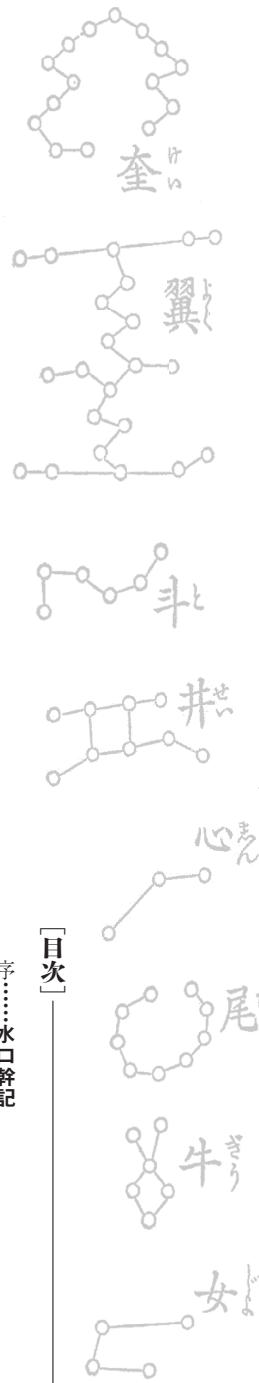
主な著書に『遊牧の世界——トルコ系遊牧民ユルツクの民族誌から 上・下』（中公新書、一九八三）、『世界民族問題事典』（共編 平凡社、一九九五）、『カザフ遊牧民の移動——アルタイ山脈からトルコへ 一九三四—一九五三』（平凡社、二〇一一）などがある。

書名	中央アジアの歴史と現在 草原の叡智 【アジア遊学No.243】 松原正毅 [編]	部数	1部
本体	2,400円(+税)	部	
ISBN	ISBN978-4-585-22709-0 C1322	部	
発行	2020年3月刊行	部	
ご送付先ご住所（通信欄）			

前近代東アジアにおける 〈術数文化〉

〔アジア遊学244〕

水口幹記 [編]



天文学・数学・地理学など自然科学分野と、
易を中心とした占術が複雑に絡み合った
思想・学問である「術数」――

術数は前近代を通じて東アジアの国々に広く伝播し、
それぞれの社会に深く浸透してゆくことで、民族文化
の形成にも強い影響を与えた。

本書では、幅広い文化的現象を統合する用語として〈術
数文化〉を設定し、これまでの研究では看過されがち
であった理論・思想以外の事象である「文学・学術・
建築物などへの影響や受容」を対象とし、東アジア地
域への伝播・展開の様相を通時的に検討する。
中国中心の術数研究から東アジアへの展開を望む。

〔编者紹介〕

水口幹記

藤女子大学文学部准教授。専門は東アジア文化史。
主著に『渡航僧成尋、雨を祈る』『僧伝』が語る異文化の交錯（勉誠出版、二〇
一三年）、『古代日本と中国文化 受容と選択』（塙書房、二〇一四年）などがある。

〔目次〕

序……水口幹記

総論——〈術数文化〉という用語の可能性について……水口幹記

I 〇（術数文化）の形成・伝播

人日と臘日——年中行事の術数学的考察……武田時昌

堪輿占考……名和敏光

味と香……清水浩子

郭璞『易洞林』と干宝『搜神記』

——東晋はじめ、怪異記述のゆくえ……佐野誠子

白居易新樂府「井底引銀瓶 止淫奔也」に詠われる「瓶沈簪折」について

——唐詩に垣間見える術数文化……山崎 藍

引用書から見た『天地瑞祥志』の特徴

——開元占経及び『稽瑞』所引の『漢書』注釈との比較から……洲脇武志

宋『乾象新書』始末……田中良明

獸頭の吉鳳「吉利・富貴」について

——日中韓の祥瑞情報を手がかりに……松浦史子

三善清行「革命勘文」に見られる緯学思想と

七〜九世紀の東アジア政治……孫英剛

II 〇（術数文化）の伝播・展開

ベトナムにおける祥瑞文化の伝播と展開

——李朝（一〇〇九〜一二二五）の靈獸世界を中心にして……フアンレ・ライ

漢喃研究院に所蔵されるベトナム漢喃堪輿（風水）資料の紹介

……チン・カク・ミン／グエン・クオック・カイン

漢喃曆法の文獻における二十八宿に関する概要……グエン・コン・ヴィエット

ベトナム阮朝における天文五行占の受容と禁書政策……佐々木 聡

「越旬幽霊集録」における神との交流……佐野愛子

「新羅海賊」と神・仏への祈り……鄭 淳一

「観象玩占」にみる東アジアの術数文化……高橋あまの

日本古代の呪符文化……山下克明

平安時代における後産と医術／呪術……深澤 瞳

江戸初期の寺社建築空間における説話画の展開

——西本願寺御影堂の幕彫彫刻二十四孝図を中心に……宇野瑞木

本体 3,200 円(+税)
A5判並製カバー装・312頁
ISBN978-4-585-22710-6 C1310
2020年3月刊行

書名	部数
前近代東アジアにおける〈術数文化〉	
【アジア遊学No.244】	
水口幹記 [編]	
本体3,200円(+税)	
A5判並製カバー装・312頁	
2020年3月刊行	
ISBN978-4-585-22710-6 C1310	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

アジアの死と

鎮魂・追善

【アジア遊学245】

原田正俊 [編]

死をめぐる思想と儀礼――

臨終や葬儀、鎮魂などの儀礼の展開は、各時代・地域において多様な様相をみせ、アジア全体で共通する要素も多い。

儒教・仏教・道教は、盛んに「死」の意味づけ、儀式の意義を説き、社会に儀礼を定着させ、祭祀の対象として絵画・仏像などの造形物や説話も広まっていった。

人々は「死」をどうとらえ、どんな文化を創り出したのか。

アジアにおける死と鎮魂についての文化を歴史学・思想史の立場から考察。

【編者紹介】

原田正俊 (はらだ まさとし)

関西大学文学部教授。専門は日本中世史・仏教史。主著・編著に、『日本中世の禅宗と社会』（吉川弘文館、一九九八年）、『日本古代中世の仏教と東アジア』（編著、関西大学出版部、二〇一四年）、『仏教がつなぐアジア―王権・信仰・美術』（共編著、勉誠出版、二〇一四年）などがある。



【目次】

序文……原田正俊

I ● 臨終・死の儀礼と遺体

道教の死体観……三浦國雄

日本古代中世の死の作法と東アジア……原田正俊

契丹人貴族階層における追薦……藤原崇人

佐藤一斎『哀敬編』について

――日本陽明学者の新たな儒教葬祭書……吾妻重二

北京におけるパンチェン・ラマ六世の客死と葬送……池尻陽子

II ● 鎮魂・追善と社会

慰霊としての「鎮」の創出

――「鎮護国家」思想形成過程の一軸として……佐藤文字

神泉苑御霊会と聖体護持……西本昌弘

南北朝期における幕府の鎮魂仏事と五山禅林

――文和三年の水陸会を中心に……康 昊

烈女・厲鬼・御霊

――東アジアにおける自殺者・横死者の慰霊と祭祀……井上智勝

照月寿光信女と近世七条仏師……長谷洋一

華人の亡魂救済について

――シンガポールの中元行事を中心に……二階堂善弘

本体 2,800 円(+税)
A5判並製カバー装・208頁
ISBN978-4-585-22711-3 C1339
2020年3月刊行

<p>書名</p> <p>アジアの死と鎮魂・追善</p> <p>【アジア遊学No.245】</p> <p>原田正俊 [編]</p>	<p>部数</p> <p>本体 2,800 円(+税)</p> <p>A5判並製カバー装・208頁</p> <p>2020年3月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-22711-3 C1339</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	

和漢のコードと自然表象

十六、七世紀の日本を中心に

「アジア遊学246」

島尾新・宇野瑞木・亀田和子 [編]

本体 2,800 円(+税)

A5判並製カバー装・272頁
ISBN978-4-585-22712-0 C1371
2020年4月刊行

自然なるものはどのように理解され、

あらわされ、再生産されてきたのか――

前近代の日本において、和漢の文化体系は、

その時代ごとに変容・刷新を経て、

思考・感性の基盤として浸透してきた。

特に漢文化は先例としての規範性から

大きな影響力を有し、和文化に取り込まれ、

融合・内在化・再解釈されてきた。

日本における社会構造や環境の転換期である

十六・七世紀に着目し、

文学・美術・芸能・歴史学など、

分野横断的に自然と人との関係を問い直す。

「编者紹介」

島尾新 (しまおあらた)

学習院大学教授。

専門は日本中世絵画史とくに水墨画史。

宇野瑞木 (うの・みずき)

東京大学東アジア藝文書院(EAA)特任研究員、鶴見大学非常勤講師。

専門は東アジア説話文学、表象文化論。

亀田和子 (かめだ・かずこ)

ハワイ大学ウェストオアフ校講師、立命館大学アトリリサーチセンター客員研究員。専門は近世絵画史・視覚文化史。

「目次」

序……島尾新

総論……宇野瑞木

I ●「内在化」のかたち

室町時代における「漢」の「自然表象」……島尾新

二十四孝図と四季表象——大舜図の「耕春」を中心に……宇野瑞木

日光東照宮の人物彫刻と中国故事……入口敦志

「コラム」環境としての中国絵画コレクション

——「夏秋冬山水図」(金地院、久遠寺)における

テクニクの不在と自然観の相互作用……塚本唐充

江戸狩野派における雪舟山水図様式の伝播

——狩野探幽「雪舟山水図巻」について……野田麻美

四天王寺繪堂《聖德太子繪伝》の画中に潜む曲水宴図……亀田和子

「コラム」モノと知識の集散——十六世紀から十七世紀へ……堀川貴司

II ●コード化された自然

「九相詩繪巻」の自然表象——死体をめぐる漢詩と和歌……山本聡美

「源氏物語」幻巻の四季と浦島伝説

——亀比売としての紫の上……永井久美子

名所としての「都」——歌枕の再編と絵画化をめぐる……井戸美里

十七世紀の語り物にみえる自然表象

——道行とその絵画を手がかり……糸汐里

寛政期の京都近郊臥遊……マシュー・マッケルウェイ

III ●人ならざるものとの交感

人ならざるものとの交感……黒田智

金春禅竹と自然表象……高橋悠介

「人臭い」話資料稿——異界は厳しい……徳田和夫

お伽草子擬人物における異類と人間との関係性

——相互干渉の不文律をめぐる……伊藤慎吾

室町物語と玄宗皇帝絵——「付喪神繪巻」を起点として……齋藤真麻理

エコクリティシズムと日本古典文学研究のあいだ

——石牟礼道子の(かたり)から……山田悠介

あとがき……亀田和子

書名	部数
和漢のコードと自然表象 十六、七世紀の日本を中心に 【アジア遊学No.246】 島尾新・宇野瑞木・亀田和子 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

移動するメディアと

プロパガンダ

〔アジア遊学247〕

日中戦争期から戦後にかけての
大衆芸術

西村正男・星野幸代〔編〕

映画・音楽・漫画・舞踊のような

ヴィジュアル的でパフォーマンス性の高い芸術は、

作り手や演者がメディアとして移動するために、

政治的・文化的なプロパガンダとして効果的だった。

芸術の担い手たちは、どんな動機で、

誰との関係で、どこへ移動したのか。

また何を移動させ、その効果はどうだったのか。

更に彼・彼女らはどんな運命を辿ったのか。

「プロパガンダ芸術」移動するメディア」と

歴史・社会の関連を、それを担った個人の思惑や

人間模様を通して活写した。

〔編者紹介〕

西村正男 (にしむら まさお)

関西学院大学社会学部教授。専門は中国語圏の文学・メディア文化史。

星野幸代 (ほしの ゆきよ)

名古屋大学大学院人文学研究科教授。専門は中国文学、中台日比較舞踊史。

〔目次〕

はじめに

――日中戦争下の芸術家群像から移動する
身体芸術プロパガンダ研究へ……星野幸代

序論 抗日期の文化人たち……阿部幸夫

第一部 ● 映画製作――投影された隠し画

「狂乱」と「新生」

――娯楽映画から灰色上海まで……王騰飛(訳:榊原真理子)

「狼火は上海に揚る」から『春江遺恨』へ……邵迎建

日本占領下における華北映画について

――華北電影股份有限公司の文化映画・ニュース映画を中心に……張新民

小型映写機という戦争プロパガンダ装置……楊翰

第二部 ● 身体芸術プロパガンダ――横溢する美

プロパガンダと装飾芸術――張光宇『西遊漫記』をめぐって……城山拓也

音楽プロパガンダにおける「差異」と「擬態」

――戦時下日本の「満支をめぐって」……葛西周

南方「皇軍」慰問――芸能人(アーティスト)という身体メディア……星野幸代

第三部 ● 日中ポピュラー文化の戦後への延伸

戦後日本における中国古典の映画化

――日本・大陸・香港・東南アジアに跨る大衆文化の記憶……晏妮

戦後における李香蘭と二人の後継者――胡美芳と葛蘭……西村正男

中国語映画の「戦後」

――女優李麗華とその主演作品を中心に……韓燕麗

付録 用語集

あとがき……西村正男



本体 2,800 円(+税)
A5判並製カバー装・224頁
ISBN978-4-585-22713-7 C1320
2020年4月刊行

二〇二〇年三月から放送開始のNHK連続テレビ小説『エール』の主人公のモデルとなった、古閑裕而(こせき ゆうじ)に関する論考も収載。

書名	部数
移動するメディアとプロパガンダ 【アジア遊学No.247】 日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術 西村正男・星野幸代〔編〕	本体2,800円(+税) A5判並製カバー装・224頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-22713-7 C1320
ご送付先ご住所(通信欄)	